

できた！ わかった！ たのしいよ！

～ そう感じることができる保育を～

リニューアル版



大阪市こども青少年局幼保施策部保育所運営課

はじめに

障がいのある子どもを取り巻く環境や考え方は日々進化しており、現場での実践や支援のあり方も年々更新され、一人ひとりのニーズに応じた支援の充実が求められています。

大阪市では昭和 49 年から、障がいの種別や程度を問わず、保育を必要とする子どもを積極的に受け入れ、『インクルーシブ保育』の実践に取り組んできました。近年では発達障がいやその傾向のある子どもが多く在籍しており、合理的配慮も含め、よりきめ細やかな支援の必要性が一層高まっています。

また、平成 21 年からは「発達支援モデル研究」に取り組み、保育所等における支援・援助の実践と検証を行いながら、保育士のスキル向上と人材育成に努めてきました。この研究には、故・里見恵子教授（大阪府立大学人間社会学部 社会福祉学科）に助言者としてご協力いただき、現場を支える視点や多くの示唆をいただきました。教授は、診断がつく前の段階から、遊びを通して継続的に関わっていくことが、そのまま支援につながることで、また保育の中で意識的に関わることの大切さや、乳児期に発達障がいの特徴を早期に発見し、支援していくことの重要性について語られていました。

こうした背景を踏まえ、平成 24 年に「発達支援モデル研究」の成果として、『できた！わかった！たのしいよ！』、平成 27 年にはその続編として『できた！わかった！たのしいよ！パート 2』を発行しました。

そしてこのたび、これまでの資料を再構成するとともに、新たな情報や保育所等で実際に工夫して取り組まれている支援例を加え、『できた！わかった！たのしいよ！』のリニューアル版として本冊子を作成しました。支援のヒントがすぐに得られるようにという思いを込め、実践に即した具体的な内容を掲載しています。

『インクルーシブ保育』とは、障がいがあるなど、支援や配慮が必要な子どもへの保育ととらえられることもありますが、「子ども一人ひとりの違いを尊重し、多様な子どもが共に育つ保育」の形を指します。“みんな違っていい”その理念が、インクルーシブ保育の土台となります。

全ての子どもがありのまま受け止められ、自分らしさを十分に発揮できるよう、環境や関わり方を考える際に本冊子を活用していただければ幸いです。

令和 8 年 3 月

大阪市子ども青少年局 幼保施策部 保育所運営課

も く じ

第1章	一人ひとりにあった支援とは	・・・ 1
	（1）わかり、自分でできるための支援	・・・ 2
	（2）感覚過敏をやわらげるための支援	・・・ 5
	（3）全体活動に参加しやすくするための支援	・・・ 7
	（4）コミュニケーションを円滑にするための支援	・・・ 9
	（5）切りかえの弱さを補うための支援	・・・ 12
	（6）不安感を和らげるための支援	・・・ 14
	（7）行事に参加しやすくなるための支援	・・・ 16
第2章	インクルーシブ保育のための環境づくり	・・・ 18
	・生活の中で見通しをもつために	・・・ 19
	・登降所の用意・準備	・・・ 20
	・トイレ	・・・ 21
	・食事	・・・ 22
	・着脱等	・・・ 23
	・姿勢保持	・・・ 24
	・行事	・・・ 25
	・生活の様々な場面	・・・ 27
	・コミュニケーション	・・・ 29
	・便利なグッズ	・・・ 31
	・時間の見える化	・・・ 32
	・支援カード	・・・ 33
	・環境の工夫	・・・ 34
	・遊びや活動の工夫	・・・ 35
	・玩具・手作りおもちゃ など	・・・ 38
	・保育室の構造化	・・・ 41

第3章	保育所内の支援体制と計画	・・・43
	（1）個別支援計画 作成のポイント	・・・45
	（2）個別指導計画 作成のポイント	・・・47
	（3）個別支援計画・個別指導計画記載例	・・・49
参考	乳児期における『気になる姿のあるこども』の観察 チェックリスト（観察事項）	・・・63
	サポートブックとは（抜粋）	・・・64
	発達障害者支援法（抜粋）保育所保育指針（抜粋）	・・・67

第 1 章 一人ひとりにあった支援とは

支援の始まりは気づきから

- ・ことばの理解が難しく、全体への指示が伝わりにくい。
- ・友達とうまく遊べない。落ち着いて話を聞くことが難しい。
- ・気持ちの切り替えがうまくできない。
- ・こだわりが強く、興味や関心が偏っている。

こうした姿は、困難を抱える子どもたちからの大切なサインです。そのサインに気づき、その子の困り感がどこにあるのかを理解することから支援は始まります。

子どもの姿を丁寧に観察し、どの部分につまずきがあるのかを見極め、必要な支援を考えて実践していきます。支援を続けていても、困り感がなかなか軽減されない場合や、成長に伴って新たな困りごとが表れる場合には、現在の支援を見直すことが必要です。

発達障がいの特性には共通する部分があっても、子どもの姿は一人ひとり異なります。そのため、「これなら」と思った支援でも、必ずしもその子に合うとは限りません。

子どもの行動をよく観察し、個々の特性をしっかりと捉えながら、まずは子どもとの信頼関係を築き、その上で本人の強みを生かした支援を行うことが大切です。



こんなことに困ってる（子どもの困り感いろいろ）

「ちゃんと」っていつも言われるけど「ちゃんと」がわからへんねん。「ちょっと」も難しいねん。

抽象的表現の理解困難

友達は好きやけど、手をつなぐのはいややねん。手をつないだ時のあつかいのがいややねん。

触覚過敏

部屋の外から楽しい声や大好きな車の音がすると、なんの音か確かめたくて我慢できへんねん。

衝動性

くるくる回るの楽しいねん。自分が回るのも、おもちゃをくるくる回すのも楽しいねん。

常同行動

目印がないとわからへん。立ってる時も遊んでる時も「ここ」って口で言われてもわからへんねん。

視空間認知の困難

いっぱいしゃべられたら最後の方しかわからんねん。1個ずつ言うてほしい。

複数指示理解の困難

においがしんどいねん。洗濯物とかごはんとか、みんながいいにおいっていうのも嫌なにおいやねん。

臭覚過敏

お昼寝嫌いやねん。眠たくないのにじっとするのしんどいねん。

睡眠障がい

好きなものしか食べられへんねん。食べたらげえってなるねん。1口も食べられへんねん。

偏食

いまもすごい頑張ってるのに先生「がんばって」ばかり言わんといてほしい。

過剰適応

友達とけんかしたときな、腹立ったらパンチしてしまうねん。我慢できへんねん。口で言われへんねん。

情動コントロールのできにくさ

うたは好きやけど、みんなで歌うとうるさくていややねん。

聴覚過敏

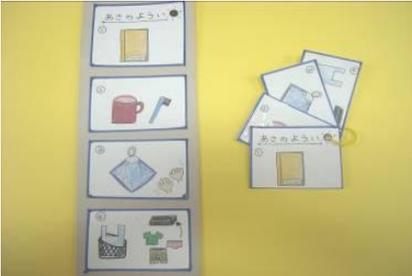
(1) わかり、自分でできるための支援

① 朝の用意

《支援のポイント》

- ・覚えられない、忘れる、など記憶の保持が苦手な子どもや周りの環境に注意が向く子どもは、絵カードを使用することで手順がわかり、次の活動や全体の見通しをもちやすくなります。活動が終わったカードは裏返す、めくるなどして、今どこを見ればいいのかをわかるようにします。
- ・カードを使う、かごを使うなど、自分で方法を選ぶことにより、活動がスムーズになることもあります。

子どもの姿：登降所の準備がスムーズにできない

子どもの困り	具体的支援の例	支援後の子どもの姿
<p>手順が覚えられない</p> <p>忘れやすい (記憶の保持が苦手)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・手順表や絵カードなどの視覚的な支援を用いる。  <ul style="list-style-type: none"> ・一度に準備できるような工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵カードを見て、用意するものを結びつけて一連の行動をしている。 ・数字に興味がある子どもは絵カードに番号をつけると意識して行動している。
<p>周りの刺激が入りやすい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・周りの刺激を遮るような位置に保育者がついて見守る。 ・子どもがロッカーや壁の方を向いて活動できるようにする。 ・動線を整理し、刺激が入りにくいようにする。 ・タイムタイマーを使用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に集中しやすくなり、登降所の準備が少しずつ自分で行えるようになってくる。

② 順番・片付け

《支援のポイント》

- ・ マットやシートを使うことにより、位置や行動が視覚で明確に捉えやすくなります。
- ・ 行事の時など大勢の前で集中することが難しい時に、気持ちが活動に向きやすくするためにシートを活用します。
- ・ 「後で遊ぼうね」などのあいまいな言葉の理解は難しいので、タイムタイマーやキッチンタイマーなどを使用して、具体的な時間を伝えたり見える化したりすると理解しやすくなります。

こどもの姿：列に並んだり、順番を待ったりすることが難しい

こどもの困り	具体的支援の例	支援後のこどもの姿
自分の場所がわからない 何をするのがわからない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 立つ位置や順番がわかるように視覚で理解を助ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ シートがあることで立つ場所がわかる。 ・ シートの絵を見て行動している。
いつまで待たばいいのかわからない 待つことが苦手	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見通しがもてるように、時間や順番を見える化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 順番待ちのボードやタイムタイマーで見通しをもつことができ、遊びに参加したり待ったりするようになる。

こどもの姿：片付けの時間になっても、なかなか片付けようとしにくい

こどもの困り	具体的支援の例	支援後のこどもの姿
時間の見通しがもちづらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音を鳴らしたり、タイマーを使って知らせたりするとともに、口頭で片付けの時間であることを伝える。 ・ タイムタイマーを使って時間の見通しが持てるようにする。 ・ 時間終了の予告をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音を聞いて「おかたづけ？」と確認している。言葉がけでは反応が薄かったが、わかりやすい音や、目に見える時間の量など聴覚や視覚に働きかけることにより、活動の切り替えがはつきりする。

③ 製作活動

《支援のポイント》

- ・一般的に絵画製作ではこどもの表現を大切にすることを優先しますが、不器用さがある、イメージが弱い等のこどもには、簡単な物やイメージをわきやすくすることから始めます。
- ・形を描くことは認識の基本につながるため、遊びの中で取り入れ、経験することが大切です。
- ・何でも赤で描く、緑で描くなどのこだわりがある場合は、正しい認識のため「雲は白い、空は青い、など生活体験を通じて適切な言葉がけを大切にして、マーカーやクレパスの色を指定する方法もあります。
- ・絵を描くことが苦手なこどもが達成感を味わえるためのひと工夫として…

描くきっかけ作りとして、色塗りや顔なら目だけを描いてみるようにする
 絵描き歌に合わせて描く
 保育者が描いた絵を真似る
 ステンシル（型抜き）をする
 スタンプをする

などがあります。

こどもの姿：折り紙がうまく折れない

こどもの困り	具体的支援の例	支援後のこどもの姿
指先が不器用	・きれいに折れるように、最初の折り目を予めつけておく。	・最初の折り目がきれいにできると比較的スムーズに製作をしている。
折り方がわからない	・折り方や工程がわかるように手順表を準備する。 (手順表の下地の色は白色を避ける。)	・手順表があることで、全体の流れや仕上がりがわかり、自分で確認して取り組んでいる。

こどもの姿：絵がなかなか描けない

こどもの困り	具体的支援の例	支援後のこどもの姿
イメージすることが苦手 不器用さがある	・記憶を思い起こすことができるよう実物や写真などを手元に置き、一緒に確認しながらイメージをもたせる。 	・そばで声をかけられたり、実際に描いてもらったりすると描き始めるようになる。 

(2) 感覚過敏をやわらげるための支援

《支援のポイント》

- ・感覚過敏のある子どもに対して、その要因を特定し、可能な限り環境調整を行い、苦痛や不安を軽減します。また、反対に感覚鈍麻（怪我をしても気づかない、痛みを感じにくいなど）の場合には怪我や体調に十分注意します。
- ・くるくる回る、手をひらひらさせるなどの常同行動は無理に止めることは好ましくありませんが、始めると他の感覚が入りにくくなるので、その子どもの好きな遊びに誘う、手を強めに握るなど他の感覚を入れるなどして切り替えます。
- ・においに敏感な場合があり、香水や柔軟剤にも気づきやすく、心身に影響を受けることがあります。
- ・のりを使った製作活動では、指先を使うことにポイントを置きがちですが、感触が苦手な子どもには、手が汚れないように配慮することから始めます。

こどもの姿：室内のざわめきや大きな音に耳をふさいだり、部屋やその場から離れたりする

こどもの困り	具体的支援の例	支援後のこどもの姿
音を敏感に感じる 不快感 苦痛	<ul style="list-style-type: none"> ・周りの音や、耳に入る音をコントロールする。 (イヤーマフ、耳栓など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・部屋から出ていくことが少なくなる。 ・イヤーマフをつけて、部屋で過ごすことができるようになる。

こどもの姿：特定の食べ物しか食べない

こどもの困り	具体的支援の例	支援後のこどもの姿
食感・味覚の不快感、苦痛 見た目の抵抗感	<ul style="list-style-type: none"> ・感覚過敏によるもの、苦手なものを把握し、形状の工夫、量の調節をするなど、無理強いしない。 ・苦手なことを自分から伝える方法を知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・残しても大丈夫ということがわかると、安心して一口食べてみようとするようになり、吐き出すことが減る。

こどもの姿：服のタグや肌触りが気になり活動に集中できない。

こどもの困り	具体的支援の例	支援後のこどもの姿
触覚の過敏による刺激 不快感	<ul style="list-style-type: none"> ・タグを取り除いた衣服を準備してもらおう。肌触りや着心地の良い服に着替える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感覚の煩わしさが減り、活動に集中できるようになる。

こどもの姿：手をひらひらさせる

こどもの困り	具体的支援の例	支援後のこどもの姿
体の動きを止めることが難しい (常同行動)	・遊びカードを使って、好きな遊びに誘いかける。	・カードを使って何をして遊ぶかを考え、自分で決めることができるようになる。

こどもの姿：のりを使った製作を嫌がる

こどもの困り	具体的支援の例	支援後のこどもの姿
感触が苦手	<ul style="list-style-type: none"> ・直接のりを触らなくていいように、筆を使ってのり付けをする。 ・スティックのりを使用し、手が汚れないようにする。 ・のり付けの時にすぐに手を拭くことができるように、濡れタオルをそばに準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手が汚れないことに安心して自分でもするようになる。 ・手を拭きながら、嫌がらずにのりづけをするようになる。

(3) 全体活動に参加しやすくするための支援

《支援のポイント》

- ・衝動性や多動性がある等の社会性の弱さがあると、思いついたことを衝動的に話す、大きな声で話すなど場にそぐわない行動をすることがあります。そこでルールを視覚化し、クラスルールとしてみんなを確認すると、対象児ばかりが注意されるということが少なくなります。
- ・約束したことを守り、発言したい気持ちを抑えている姿を認め「よく我慢できたね」と言葉かけをすることが大切です。
- ・集中し、座って話を聞いている時は、アイコンタクトで認めます。常に視界に入れ「あなたを見ている」というサインを送ります。
- ・衝動的な行動や注目獲得行動には過剰に反応せず、冷静に対応します。
- ・いつまでその場にいたらいいのかわからないこどもには、安心して活動に参加できるように、終わりがわかるようにします。

こどもの姿：クラス全体で話を聞くと、思い浮かんだことを口に出す

こどもの困り	具体的支援の例	支援後のこどもの姿
話したい気持ちを抑えられない(衝動性)	<ul style="list-style-type: none"> ・「先生が話しているときはしずかにします」をクラスルールとして全体で確認する。 ・発言に振り回されず、サインやカード、簡潔な指示を出して、静かにするよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定着するまでは保育者の話の途中で話し出すが、少しずつ定着してくると、カードを見ると自分で気づいて静かにしようとするようになる。
場の状況がわからない	<ul style="list-style-type: none"> ・声の大きさレベルを伝えて場の状況にあった声の大きさを話す練習をする。 	
内言語(頭で思っていること)が外に出る	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉を心の中に留めておく経験をする。(※) 	<ul style="list-style-type: none"> ・両手で頭を押さえて発言したい気持ちを抑えている。

こどもの姿：集まって話を聞く時に、周りにいる友達が気になり、注意がそれて動き出す

こどもの困り	具体的支援の例	支援後のこどもの姿
状況判断が苦手	<ul style="list-style-type: none"> ・話に集中できるように、視覚刺激の少ない方を向いて座る場所を設定する。 ・椅子を使って座り、他児との距離をとって集中しやすいようにする。(椅子が使えない時はマットに個人マークを貼るなどの工夫をする。) ・話の内容に興味をもち集中できるように、絵や図を描きながら説明し、理解できているか確認しながら進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・壁面の情報に注意がそれることが減り、保育者に注目しやすくなる。 ・椅子を使って一定の距離をとることで他児に対し気になることが少なくなり、友達の気を引こうとすることが減る。 ・言葉だけでなく視覚的な情報が入ると、話に集中し理解しやすくなる。

こどもの姿：おもちゃ棚や机の上に登ったり立ったりする

こどもの困り	具体的支援の例	支援後のこどもの姿
注目獲得行動 好奇心 高いところに上りたい	<ul style="list-style-type: none"> ・のぞましくない行為には反応せず「のぼらない」ではなく「おります」と端的に伝える。 ・高いところに上りたいという欲求を遊びで満たせるようにする。 ・上ってはいけないところは視覚でもわかるように表示し、危険のないよう上れないような環境設定をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・過剰に反応しないで端的に言葉をかけるとこちらの様子を見て下りてくる。

こどもの姿：歌を歌っているときにじっとしていることが難しい

こどもの困り	具体的支援の例	支援後のこどもの姿
いつまでその場にいらしいかわからない	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞を書いた小さな手持ちカードを見せる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞を指で追いながら、その場で立ってカードを見ている。

※スリーヒントゲーム（言葉を留めるゲーム）

- ・「今から3枚の絵カードを見せますが、何の絵か分かってもしゃらずに覚えておいてくださいね。」と言ってから、絵カードを見せる。
- ・このあそびを繰り返すと、言葉を内言語化することや、記憶力（ワーキングメモリー）を養うことにもつながります。

* 絵カードの目安 3歳児…1枚、4歳児…2枚、5歳児…3枚

【応用】

- * 「朝の会が終わってから聞きますね。」「給食の後聞きます。」など、具体的に伝えておき、後から尋ねる。

(4) コミュニケーションを円滑にするための支援

① 集団で過ごしたり遊んだりすることに困り感があるこども

《支援のポイント》

- ・体を動かしたい要求を十分に保障し、活動に「動」と「静」のメリハリをつけると気持ちも落ち着き、室内遊びでのコミュニケーションを円滑にすることができます。保育者が仲立ちとなり、遊び方や関わりの中での言葉のやり取りのモデリングをします。

こどもの姿：友達のそばで一人で遊んでいるが、人数が増えたとその場から離れる

こどもの困り	具体的支援の例	支援後のこどもの姿
好きな遊びを邪魔されず、じっくり楽しみたい 騒々しさが苦手	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いて遊べる環境を確保し、周りのこどもには「そっとしてあげて」と声をかけて一人遊びを保障する。 ・人数を制限し、少しずつ人数を増やして遊べるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな遊びや得意な遊びを楽しみむ中で保育者の介入を嫌がらないようになり、信頼関係が生まれてくる。保育者との関係ができてくると、友達とも関わりながら遊ぶことが多くなる。
友達と一緒に遊ぶ楽しさが感じられない。	<ul style="list-style-type: none"> ・始めに好きな遊びを通して保育者と1対1の関わりを作る。その上で関係がもてるようにサポートする。 	

こどもの姿：片付けの時間や活動中に部屋から出ていく

こどもの困り	具体的支援の例	支援後のこどもの姿
活動がわからない 部屋が騒がしい 活動に参加したくない	<ul style="list-style-type: none"> ・部屋から出ていく原因を探り、取り除く。 ・カードを使って、どこに行くのか、何をしたいのかを伝えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部屋が騒がしい、活動が分からない、外部の刺激に影響されているなどが原因の時は、その刺激を取り除くことで部屋から出て行くことが少しずつ減ってくる。 ・意思表示により保育者とコミュニケーションが図れ、行きたい場所や落ち着く場所で欲求を満たし安定して過ごすことができる。 ・タイマーの使用や、言葉がけを繰り返す中で、自分で区切りをつけて部屋に戻るようになる。

② 自分の思いや要求を伝えることに困り感がある子ども

《支援のポイント》

- ・ 子どもの行動の先取りや即時対応ではなく、場面に応じた言葉を引き出していくことも必要です。言葉・文字・サイン・身振りや実物など、子どもが使える方法で自発的な表現を増やし、コミュニケーションスキルを育てましょう。
- ・ 選択肢を示して、自分で決める機会を作り、意思を確認します。

子どもの姿：おやつのおかわりがほしいなど自分の要求や困ったことを訴えることができない

子どもの困り	具体的支援の例	支援後の子どもの姿
要求の伝え方がわからない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの行動を先取りせず、要求を出しやすい場面を作り、言葉や動作、カードを使って引き出していく。 ・ 「取って」「手伝って」「教えて」「貸して」など、要求を伝える言葉の使い方を知らせていく。 ・ 友達にも要求を受け止めてもらうように伝えておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 要求を伝える言葉を真似したり、繰り返し促されて使ったりすることで、表現しようとする姿がでてくる。

子どもの姿：友達に対して思いがうまく伝えられず叩く

子どもの困り	具体的支援の例	支援後の子どもの姿
言語化することが苦手	<ul style="list-style-type: none"> ・ 叩いた時や、叩きそうになった時に保育者が具体的な言い方を知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉で伝える場面や保育者に助けを求める場面が増え、叩く回数は少なくなる。
状況に応じた言葉の使い方が難しい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「友達を叩きません」をクラスルールにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対象児ばかりが注意されることがなく、みんなでクラスルールを守れるようになる。
衝動性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉で伝えられた時や、叩かずに過ごせていることをその都度すぐに褒める。 	

子どもの姿：部屋の中を走りながら、友達の気を引こうとする

子どもの困り	具体的支援の例	支援後の子どもの姿
関わり方がわからない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 別の遊びを提供したり、自分で他の遊びを選択したりできるようにする。 ・ 戸外で思い切り体を動かして気持ちを発散することで、活動のメリハリをつける。 ・ 室内では、友達数人で遊べるように保育者が仲立ちとなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気持ちが発散できたり、保育者が仲立ちになったりすることで、気持ちが落ち着き、友達と一緒に遊ぶようになる。

③ 人の気持ちがわからず自分本位に行動しがちなこども

《支援のポイント》

- ・ 3・4歳児くらいでは、譲る、分け合うということを受容することが難しく、分け合うことを目標にするとストレスになるので、トラブルを起こさないことを目標にします。思うようにならず、パニックになった時はあえてしばらく様子を見て対応を判断します。
- ・ 少しの時間でも叩かずに過ごせている姿を認め、「今叩かなかったね！」とその都度褒めることが自信につながります。“叩かず過ごす”は当たり前のことのように思えますが、その子にすれば、とても頑張っていることなので、きちんと褒めることが大切です。
- ・ ロールプレイング以外の支援として、コミック会話やどんな気持ちカードを用いて、相手の気持ちを伝える方法があります。

こどもの姿：友達とぶつかった時、「押さんといて」と怒る

こどもの困り	具体的支援の例	支援後のこどもの姿
客観的な状況把握が苦手 些細なことで怒り出す（衝動性）	・「痛い」というこどもの気持ちを受け止めて興奮する前にその時の状況を丁寧に説明する。 「痛い」と言うことに執着する時は、冷やす、傷テープを貼るなど具体的な対応をする。	・説明されると状況が理解でき、気を取り直して相手に「ごめんね」と謝る姿が増えてくる。 ・痛いと何度も訴えていたが、目に見える対応をしてもらうことにより気持ちが落ち着く。

こどもの姿：特定の友達を誘うことに頑なになり、ふざけて友達に抱きつく

こどもの困り	具体的支援の例	支援後のこどもの姿
相手の気持ちの理解が苦手 こだわり 距離感をつかみにくい 感情をコントロールするのが苦手	・相手が一緒に遊べない時は曖昧にせず「今はいやだって言ってるよ。」とはっきり伝え、目の前から見えない場所に移動してもらう。 ・「先生と遊ぶ？○○ちゃんと遊ぶ？」など選択肢を示し、気持ちを切り替えて遊べるようにする。 ・テンションが上がりすぎないように、途中で休憩を入れたり仕切りのあるコーナーに移動させたりして、落ち着けるよう誘導する。	・友達の姿が見えなくなると切り替えが早くなる。 ・「楽しい」と「ふざける」の区別ができるように保育者が気持ちを言語化し、代弁することで落ち着いてくる。

こどもの姿：友達が使っているおもちゃを取ったり自分の思いを通そうとしたりする

こどもの困り	具体的支援の例	支援後のこどもの姿
自分の物と相手の物の違いがわからない 相手の気持ちや行動を理解するのが苦手	・おもちゃは一人で遊べる量に分け『ひとりぶん』と表示し、それを使うことを知らせる。 ・保育者が仲立ちとなり友達の思いを聞く場をもち、相手も欲しがっていることを伝え交渉する。 ・思い通りにならなかった時は、予め予備を準備しておくか、違う遊びに誘いかけ、気持ちを切り替えられるようにする。 ・「使いたいものが使えない時もあります」をクラスルールに取り入れる。	・『ひとりぶん』のおもちゃで納得して遊んでいる。

(5) 切り替えの弱さを補うための支援

① 感情のコントロールに困り感がある子ども

《支援のポイント》

- ・衝動性が強く、自分の気持ちをコントロールしにくい場合は、その子どもに合った、気持ちを切り替える支援が必要です。
 - （別の場所に誘う
原因となったものを取り除くなど）
- ・パニックが起こらないような工夫として、事前に興奮しすぎないようにします。
- ・相手の感情を理解することが難しい子どもは、絵カードやコミック会話を用いることにより、状況や友達の気持ちを視覚から感じることが出来ます。保育者は常にメモ帳を持っておくと、適時視覚支援を行うことができ、子どもの気持ちが高ぶる前に対応することが出来ます。
- ・「ばか」などの不適切な言葉を使い続けると、パターン化されて言ってしまうという回路にはまるので、反応せず別の言葉で言えるようにルール化します。
- ・約束事をクラスルールにしてその子どもばかりが注意を受けることがないようにします。

子どもの姿：自分の思いが通らないと、友達を押ししたり叩いたりする
友達に関わりたい時に「ばか」と言う

子どもの困り	具体的支援の例	支援後の子どもの姿
感情のコントロールが苦手。(衝動性)	<ul style="list-style-type: none"> ・別の場所に誘い、落ち着かせ、思いを聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・興奮して泣きながら怒っていた状態も次第に治まり、自分の気持ちを話し始める。
状況の理解が苦手	<ul style="list-style-type: none"> ・コミック会話やどんなきもちカードで状況や気持ちの整理をしたり、相手に気持ちがあることをわかりやすく伝える。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・コミック会話でその子が言ったことを書こうとすると嫌がり、自分から「おしたらダメ」「〇〇ちゃんがないている、ごめんね」と言うようになる。
関わり方がわからない	<ul style="list-style-type: none"> ・こうすればいいという関わり方のモデルを示す。 「友達に関わる時にのぞましい言葉を使う」というクラスルールを作り、「いっしょにあそぼう」「かしてほしい」「～しよう」等具体的な声かけの言葉を伝え、クラス全体で約束に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者がモデルを示すことにより、「ばか」以外の言葉で相手に伝えようとしている。

② 勝ち負けのこだわりが強い子ども

《支援のポイント》

- ・ 4歳児ぐらいになると勝敗がわかり、ゲームを楽しめるようになりますが、勝ち負けに対するこだわりが強すぎるとゲームを楽しめません。最初に負ける経験をすると、ゲームが嫌になったりその場面がフラッシュバックしたりすることがあります。まずは失敗感を持たせないことが大切です。
- ・ 5歳児になると、一人ひとりの力が高まり、集団としてのまとまりや力も育ってきます。ナチュラルサポーターや周りの友達の意見を取り入れ、集団作りをしながら取り組めるようになります。対象児が自分の気持ちをコントロールする力がつくように、集団遊びやリレーでは共に育ちあう関係づくりにつなげていきます。また、無理に参加を促すのではなく、“見ているだけ”でも参加している気分を味わう子もいます。そうした子が“一緒にやりたい”という気持ちをもつようになることもあるため、こどもの気持ちに寄り添いながら、見守ることも大切です。

こどもの姿：ゲームやリレーで負けそうになると、途中で投げ出して泣いたり怒ったりする遊びや並ぶ順番などで1番になれないと暴れる

こどもの困り	具体的支援の例	支援後のこどもの姿
勝ちや一番へのこだわりが強い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加の仕方を考え、負けずに遊ぶ楽しさを味わえるようにする。 ・ 事前にゲームのルールや遊び方を知らせるなかで、勝つことも負けることもあることを知らせる。 ・ 勝ちたい、1番になりたいという気持ちを受け止め、頑張っている姿を褒める。 ・ かんしゃくを起こした時は早い段階でその場から離すなど、クールダウンできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認められることが増え、遊びの楽しさがわかってくると、少しずつ我慢ができるようになり、かんしゃくを起こしてもその場から離れることの方が嫌で、またやりたいと戻ってくる姿も出てくる。
こだわりが強く、感情のコントロールが苦手	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1番を意識させない声かけや並び方、移動の仕方などを工夫する。 ・ 思い通りにならなかったことは「残念」と声をかけ、気持ちを切り替える姿を見守る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1番へのこだわりが緩んでくる。泣いたり怒ったりしながらも、順番に並ぼうとしたり、気持ちを切り替える時間が短くなっていく。

ゲーム・遊びのためのひと工夫

○ゲームやリレーを始める前に

- ・ 勝敗のないゲームを選び遊ぶ楽しさを味わう。(変装ゲーム・ビンゴゲームなど)

○リレーでは

- ・ 自分のチームが負けていると走らないことがあるので、リレーの先頭を走る。
- ・ 「腕を大きく振っていた」「足の動かし方が上手だった」など勝ち負けではない価値観で認めていく。

○ドッジボールでは

- ・ ルールが理解できなかつたり、ボールが当たるのを嫌がったりする場合は、“ずっと外野にいてもいい”など〇〇ちゃんのルールを他児に投げかけて了解を得て、まずはゲームに参加する楽しさを体感するようにする。

(6) 不安感を和らげるための支援

《支援のポイント》

- ・状況変化に弱い子どもや、不安感が強い子どもにとって、午睡やトイレに行くことは不安要素が多いことを理解し、配慮することが必要です。
- ・苦手な活動は自信のある活動と組み合わせ、次に楽しみがあるという体験をし、見通しをもって参加できるようにします。目標の設定は無理なく少し頑張れば到達できるというところに設定し、達成感や満足感を積み重ねていきます。
- ・どうしたらいいのかわからないという事が不安につながり、活動に参加できない場合は、活動の様子を見ることから始めると、やり方もわかり不安の軽減につながることもあります。また、全部参加しなくても、見ているだけでもいいし、できるところから参加すればいい、と伝えると安心して参加しやすくなります。

こどもの姿：午睡になると不安になり、布団の周りに近寄ろうとしない

こどもの困り	具体的支援の例	支援後のこどもの姿
状況がわからない 落ち着かない	<ul style="list-style-type: none"> ・室内状況が変わる午睡では、事前にスケジュールで伝える、視覚支援で室内の変化（カーテンが閉まるなど）を伝える。 ・仕切りをしたり、寝る場所を固定したり工夫する。 ・不安がある場合は、保育者がそばについて不安の内容について対処する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・寝ている友達の様子が気になり、同じ場所で過ごすようになる。 ・布団の場所を固定すると午睡時その場所へ行くようになる。 ・気に入ったもの（タオル、人形など）と一緒に布団への抵抗が薄れ寝るようになる。

こどもの姿：保育所のトイレに行くことを嫌がる (家庭以外のトイレで排泄をすることを嫌がる)

こどもの困り	具体的支援の例	支援後のこどもの姿
家と違う環境が不安	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレを嫌がる原因（便器の感触、室内の様子、水の音、下着を脱ぐなど）を探り、対処の方法を考え伝えることで、安心感をもたせる。 ・こだわりを生かして、特定の便器を決めたりお気に入りの物を置いたりする。 ・失敗した時は素早く始末し、保育者との信頼関係をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不安な気持ちを受け止めてもらえたという気持ちから保育者と信頼関係ができ、少しずつトイレに対する拒否感是和らいでくる。 ・こだわりを生かすことで安心感をもてるようになる。

こどもの姿：しっぽとりで、しっぽを取られることが嫌で怒り相手を叩く

こどもの困り	具体的支援の例	支援後のこどもの姿
しっぽを取られることの不安	<ul style="list-style-type: none"> ・物を取られない鬼ごっこ（氷鬼）で、ルールのある遊びの楽しさを知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不安が和らぎ、安心して友達と一緒に楽しむ。

こどもの姿：健康診断や災害訓練で泣いたり不安定になったりする

こどもの困り	具体的支援の例	支援後のこどもの姿
普段と違うことへの不安 予測がつかないことの怖さ	<ul style="list-style-type: none"> 不安な気持ちの時には安心できるようそばにつき、友達が健診を受けている様子を一緒に見る。また、音に対して過敏に反応する時は、対応グッズの使用や、クールダウンのスペースに移動して苦痛が緩和できるようにする。 具体的な行動を事前に絵カード等で知らせておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 不安な表情は見せるが、泣かずに参加する。

こどもの姿：初めてのこと、新しいことになかなか取り組むことができない

こどもの困り	具体的支援の例	支援後のこどもの姿
見通しがもてない どうしたらいいかわからない わからないことへの不安	<ul style="list-style-type: none"> 事前に視覚支援やシミュレーションで内容を知らせたり、やって見せたりして、具体的にわかるように伝える。 納得し理解して取り組めるよう援助し、自信や達成感をもてるようにする。 見ているだけでも良いということを知らせる。 目標や終わりがわかるよう目標カードを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> どんなことをするのか見たり、保育者がそばについてくれたりすることで不安が和らぎ、少しずつ参加するようになる。 繰り返し活動し、自信がつくと、「自分で(する)」と言って取り組むことができるようになる。

遊びのひと工夫

※遊びにひと工夫加えることにより、不安を和らげることもできます。たとえば・・・

○すごろく1回休みカード

1回休みのマスに入った時は、1回休みカードを取ります。次の順番の時にカードを出すことで、順番をとばされるという不安を和らげることができます。



○おかわりしっぽとり



しっぽを取られても所定の場所からしっぽをもらうことができ、引き続き遊びに参加できるようにします。取られても終わりではなく、また参加できるので安心できます。初めは、何本でももらうことができるところから始めて、次は3本まで、次は1本だけ、と少しずつ減らしていけば、スモールステップで不安を和らげていくことができます。

(7) 行事に参加しやすくするための支援

《支援のポイント》

- ・非日常の取り組み（特に発表会や運動会）への参加の仕方や活動内容については、部分的に参加する、事前に見に来てもらうなど、保護者と共に考えすすめていきます。無理に参加させようとせず、こどもなりに満足感がもてる参加方法を見つけます。また、予め写真やビデオ等で行事の様子を見ておくと、全体のイメージがもて、安心して活動に参加しやすくなります。
- ・行事では、当日に向けてのシミュレーションが非常に大切です。まず、一人ひとりの状況に応じて具体的に当日することを知らせていきます。しかしながら、することがわかっているにもかかわらず参加できない、ということもあるので、その理由がどこにあるかを考えて対処することが必要です。
- ・手を叩く、跳びはねるなどの揺れ刺激は、手のひらに触覚刺激を入れると落ち着きやすくなります。
- ・こどもの特性から興奮しやすい場所は予測しておき対処の方法（イヤーマフを使用する・不安な時は強く抱きしめるなど）を考えておきます。

こどもの姿：行事のため部屋が普段と異なると、部屋に入れないことがある。集会や行事の時に部屋から出て行く

こどもの困り	具体的支援の例	支援後のこどもの姿
普段と違うことへの不安感	・事前に変更の内容を知らせておいたり、行事の前には会場の様子を見せたりする。	・慎重ではあるが入室している。いつもと違った雰囲気でも落ち着かないが、少しずつ表情も落ち着きをみせる。
何をするのかイメージしにくい	・内容について、前年度の取り組みの写真やビデオ等で様子を知らせておく。	

こどもの姿：所外保育など保育所の外に出かけると、不安になったり興奮状態になったりする

こどもの困り	具体的支援の例	支援後のこどもの姿
普段と違うことへの不安	・事前に写真や行程表を使って、行き帰りのルートや乗り物、現地での活動を確認しておく。	・写真で見た場所などを見つけると、「あった！」と言って喜び、パニックにならず行動している。
見通しがもちにくい		

こどもの姿：運動会、発表会など活動の流れを理解し取り組むことが難しい。自分の出番以外にもしゃべったり、舞台内を歩き回ったりして落ち着かない

こどもの困り	具体的支援の例	支援後のこどもの姿
見通しがもてない	<ul style="list-style-type: none"> ・全体のスケジュールと出番の流れや内容がわかるようにカードで伝え確認する。 ・待ち時間は落ち着けるスペースで安心して待てるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・折りたたみ式の視覚支援カードに座る位置や並ぶ順を細かく示すことによって、安心して活動に参加している。
普段と違う状況の不安感	<ul style="list-style-type: none"> ・気の合う友達とペアを組んで活動に参加できるようにする。 ・困ったことが起きた時には、この保育者と言うようにと、保育者の名前といる場所を伝えておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から関係ができていた友達となら、手をつないで安心して一緒に過ごしている。 ・予想外のことが起きても「だいじょうぶ」と対処法を知らせておくことで、安心してとりくむことができる。
緊張が高い	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台上に客席からの視線を避けられる場所を作り、不安になったらその場所に入れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視線を避けられる場所を設け、不安が和らぎ参加できる。



こどもの姿：行事で椅子に座っているが手を叩いたりぴよんぴよん跳びはねたりする

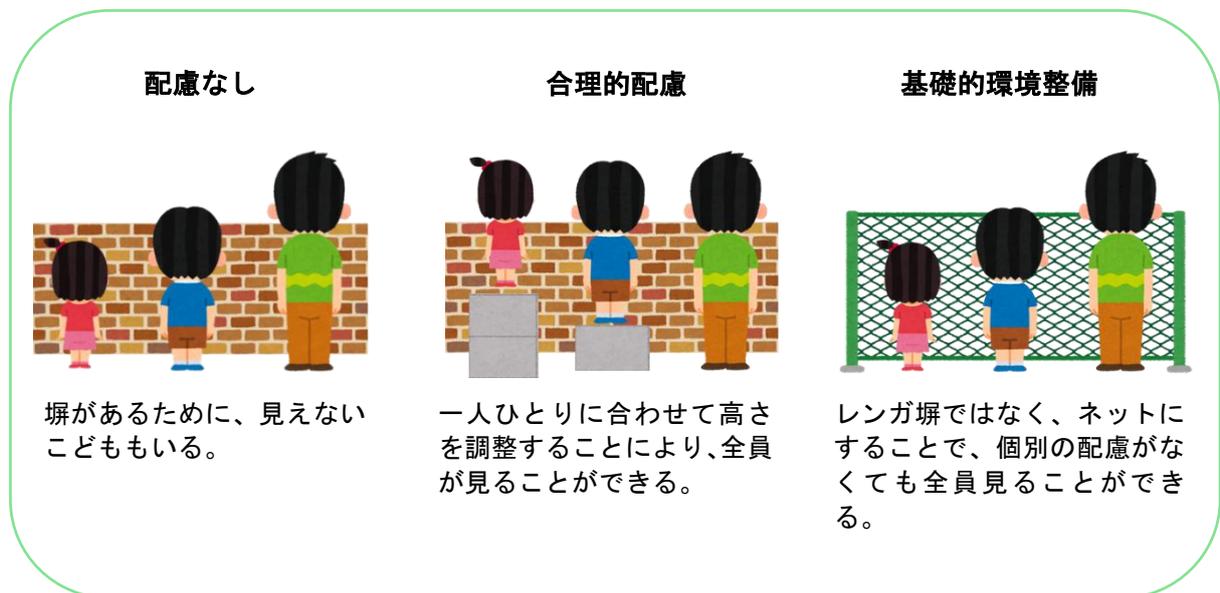
こどもの困り	具体的支援の例	支援後のこどもの姿
落ち着かない	<ul style="list-style-type: none"> ・感覚を刺激するマッサージグッズや好きなおもちゃ（手のひらサイズ）を手渡す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感覚グッズを触ったり握ったりしながら、静かに椅子に座っている。

第 2 章 インクルーシブ保育のための環境づくり

合理的配慮と基礎的環境整備

平成 28 年 4 月 1 日に施行された「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」において、「合理的配慮」の提供が義務化されました。合理的配慮とは、一人ひとりの特性や場面に応じて生じる障がいや困難さを取り除くために、個々に合わせた調整や変更を行うことを指します。

一方で、「基礎的環境整備」は「合理的配慮」の基礎となる環境整備のことです。より広く全ての子どもにとって、遊びや生活がしやすい環境づくりを行うなど、全体的に必要なとされる整備で、「合理的配慮」の充実を図る上で「基礎的環境整備」の充実は欠かせません。



環境づくりのポイント

「いつ、どこで、何を、どのくらい、どんなやり方で行うのか」など、抽象的な表現ではわかりにくい情報の意味をこどもの理解に合わせて、視覚的・具体的に整理することを「構造化」と言い、構造化には「時間の構造化」「空間の構造化」「手続きの構造化」などがあります。

構造化することにより、困っている・戸惑っているこどもの理解を助け、見通しをもって安心して行動することにつながります

構造化の代表的なものに視覚支援があり、様々なものを可視化（見える化）することが、理解を助けるための有効な手立てとなります。今することやこれからすることの手順、さらには終わりの見通しがもてると、すべきことに集中しやすくなり、苦手さの軽減にもつながります。

また、視覚支援は、インクルーシブデザインとして取り入れられることも多く、誰にとっても生活を便利にわかりやすくするものです。保育所においても、すべてのこどもに効果的であり、生活に見通しをもつことに役立ちます。

生活の中で見通しをもつために

1週間・1日のスケジュールを表にして知らせます。個別の支援が必要なこどもも、そうでないこどもも、その日の予定がわかると見通しをもって行動でき、気持ちの安定につながります。

〈1週間の予定表〉



〈1日の予定表〉



朝、みんなで1日の生活の流れを確認します。流れがわかり、安心して過ごすことにつながります。
終わった活動はカードを裏返したり抜いたりして「終わったこと」がわかるようにします。進級後も迷わないよう、幼児クラスでは同じ形式のスケジュール表を使用します。

〈乳児向けの予定表〉



朝、半日の流れをイラストで知らせます。さらに「今すること」を1枚だけ掲示すると、よりわかりやすくなります。

登降所の用意・準備

こどもの状況や理解に合わせて手順表を示すと視覚的に理解しやすくなります。

〈朝の用意の手順表〉



ロッカー横に掲示すると準備しながら確認できます。壁に貼ればみんなが見て確認できます。情報が多いと整理しにくいこどもには、めくり式の絵カードを使い、1つずつ確認しながら進められるようにします。

〈準備かご〉



リュックから準備物を出してカゴに入れて持ち運びます。カゴに手順表を貼り、順番に用意していきます。カゴが空になったら朝の準備が終わるので、視覚的にわかりやすいです。

〈出席ノート〉



壁に掲示した出席ノートに赤い枠をつけ、シールの貼る位置を見てわかるようにします。

トイレ

クラス全体での約束事やルールを写真や絵を使い、目に見える形で伝えていきます。

〈トイレの使い方〉



ズボンの上げ下ろしを手順ごとに示すと、流れがわかりやすくなります。

〈トイレットペーパーの使い方〉



1回分のトイレットペーパーの長さを目で見てわかりやすくします。手のマークをつけておくと、手で押さえて切ることがわかります。

〈乳児向けの掲示〉



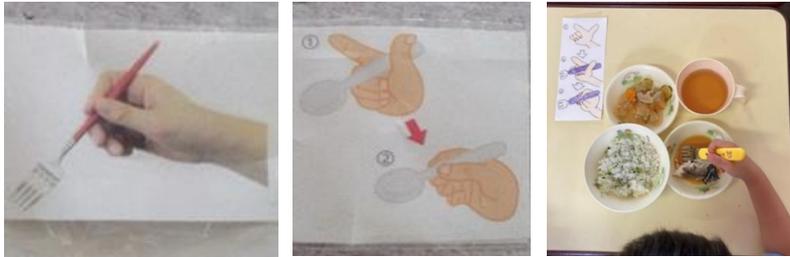
1回分のトイレットペーパーを切って容器に入れておくと、自分で後始末できます。

スリッパの置く位置を絵やマークで示すと、1足ずつ並べやすくなります。

食 事

クラス全体での約束事やルールを写真や絵を使い、目に見える形で伝えていきます。

〈食具の持ち方〉



〈食器の並べ方〉



〈食後の片付け〉



写真やイラストでわかりにくい時は立体にするとより理解しやすくなります。途中でわからなくなっても確認することができるよう、テーブルの端に掲示することも有効です。



自分で意識して食器を並べられるよう、食器の置く位置を掲示しておきます。



食後の片付けは、写真やイラストで表示しておくとしつずつ確認しながら行えます。また、時計と一緒に時間の目安を掲示しておくとしつを意識して食べることに繋がります。

姿勢保持

〈姿勢保持のための工夫〉



足を床につけて座ると安定します。足置き台を置き、こどもに合った椅子の高さに調整します。



筋力が弱く、椅子からずり落ちやすいこどもは、すべり止めシートや肘おきをつけると姿勢保持がしやすくなります。

〈バンビーナチェア〉



両側から腰まわりをしっかりと支え、姿勢保持ができます。サイズ調整も可能です。

〈正しい姿勢〉



言葉かけと併せてイラストでも正しい姿勢を知らせます。「すわるくん」などニックネームをつけると、親しみやすさが増します。

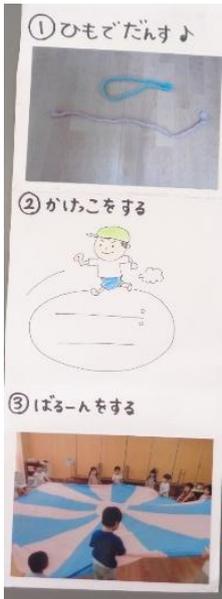
行事

いつもと違うことや見通しが持てないことは不安感が高まります。「今から何があるのか」「どうしたらよいのか」を具体的に知らせ、不安を和らげるようにします。

〈運動会：リレー〉



〈プログラムの順番〉



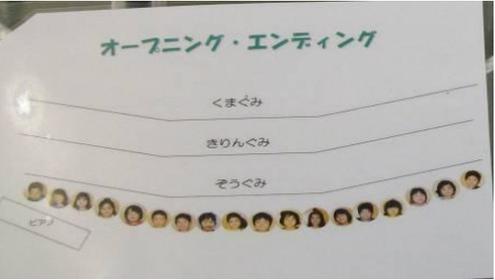
走っている途中で違うことが気になって、リレーのことを忘れてしまうこともあります。コーンに興味がある物や数字等をつけるなどにより、最後まで走ることに気が向きやすくなります。また、プログラムの順番を見える化しておくこと、見通しがもて、不安が和らぎます。

〈発表会〉



こどもが手に取れるよう、小さな絵本を作り、表紙を好きな模様にして興味をもたせたり、劇の雰囲気や流れを絵や写真にして載せたりしておきます。

〈位置図〉



並ぶ位置がわかるように見える化します。自分の位置がわかると、大勢の友だちの中での不安や混乱を軽減できます。

運動会や発表会の出番や待ち時間に「どこで立つのか・座るのか」がわかるように適宜カードを見せます。

〈所外保育〉



下見に行ったときに当日の活動をイメージし、写真を撮って、情報収集しておきます。
 こどもが不安になる場面などを予測し、対処の方法を考えておきます。



予定カードを見て、次にすることの見通しがもてると、安心につながります。



遠足の思い出を写真や文章で掲示しておくことで、記憶や体験を思い出し遠足の振り返りができます。

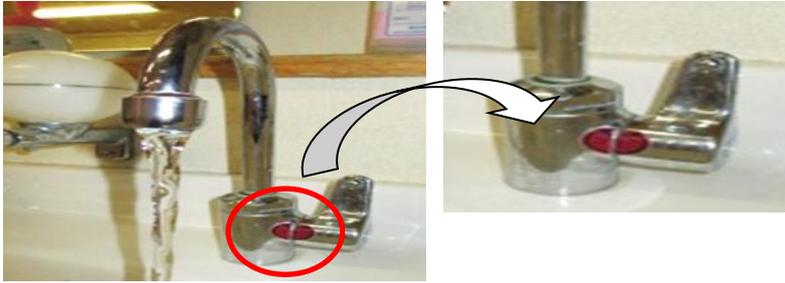
〈健診〉



診察の手順を見てわかるようにしておくことで、不安感が和らぎます。

生活の様々な場面

〈水道の出し方〉



水道の蛇口に目印をつけ、模様を合わせて水の量を調節します。

〈声の大きさ〉



声の大きさを絵で見える化し、どれくらいの大きさの声で話せば良いかを知らせます。

〈みんなのルール〉



クラスのルールをつくり、クラス全体で確認します。

〈片付け〉



カゴの底におもちゃの色に合わせた色画用紙を貼ったり、椅子の片付ける位置にラインをつけたりすると、分かりやすくなります。

〈並ぶ場所の目印〉



椅子を使用しない場面では、活動や場所によって、マットに名前やマークをつけて場所を知らせます。

床に足形をつけておくと、並んで順番を待つことが理解しやすくなります。

〈テラスの表示〉



テラスや廊下なども視覚的にわかりやすい表示をつけて知らせます。

歩く場所にラインをつけ、歩く方向もわかるようにしておきます。

〈階段〉



〈くつばこ〉

緩衝材



視覚障がいのある子どもには、自分のくつ箱がわかるように、まわりに凸凹のある緩衝材を貼り付けています。

コミュニケーション

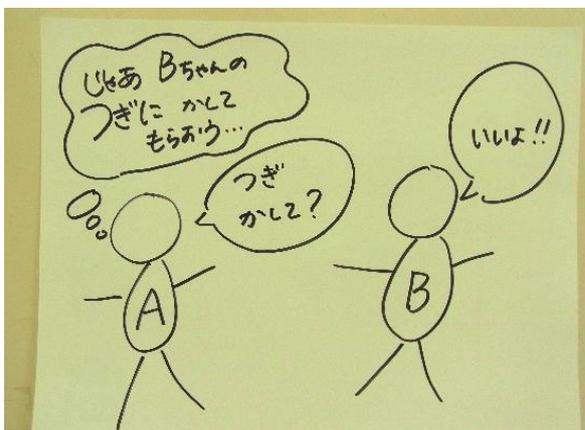
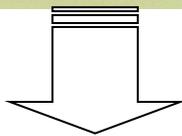
気持ちを表したり、伝えたりする時にも視覚的な支援が有効です。気持ちの状況が描かれた絵やカード等を用いると、描かれている絵や文字に気持ちが集中し、落ち着くことができます。また、自分の気持ちを整理したり、客観的に考えたりすることにも役立ちます。

〈どんなきもちカード〉



「うれしい」「かなしい」「こまったな・・・」こどもたちのいろいろな気持ちに気づき、共感しあえるツールです。保育者が携帯し、言葉にならない思いを引き出すときに使います。

〈コミック会話〉



人の気持ちは目に見えないため、理解することが難しいものです。コミック会話は、目に見えないものを視覚化することにより、理解を助ける方法です。

(人)  と

(ことば)  と

(気持ち)  で

状況や感情を表します。今の状況をその場でメモ帳に絵で描くとわかりやすくなります。こどもの目の前で描くことで、気持ちの切り替えにもつながります。

〈意思カード〉



写真やカードを使って、自分の意思を自発的に伝えるコミュニケーションのひとつとして使います。



好きな遊びやおもちゃのカードを枠の中に貼って、自分の意思を伝える使い方もできます。

〈おでかけカード〉



違うクラスへ行きたい時には、担任にこのカードを渡し、行先の保育室で、もう1枚のカードを保育者に渡します。このようにカードを利用して、こどもの居場所を把握し、保育所全体で見守ります。

便利なグッズ

〈三角鉛筆・鉛筆グリップ〉



グリップを使うと持ち方が安定し、筆圧もしっかりとします。他にも色々な形のものがあります。

〈イヤーマフ〉



聴覚過敏のこどもが、身のまわりの音をコントロールするのに役立ちます。

〈はさみ〉



片手で押さえるだけで切ることができるはさみ、バネの力で刃が開くはさみ、保育者が補助しながら一緒に切ることのできるはさみ等があります。

〈箸〉



簡単な指の動きで操作ができる、正しい持ち方ができるなど、色々な箸があります。

〈スプーンフォーク〉



T字のグリップをつけると、安定して下手持ちができてやすくなります。ホースで作成することができます。

時間の見える化

〈タイムタイマー〉



〈キッチンタイマー〉



〈時計の表示〉



Point

タイムタイマーは、時間の経過が目で見えてわかるようになっています。室内では、時計の近くに掲示しておくことで、時間の見える化につながります。小さなものや、持ち手のついた持ち運べるものもあります。

Point

数字で残り時間がわかります。“0”になり音がなったら次の行動に移るなど、気持ちを切り替えるときに使えます。キッチンタイマーは保育者のポケットに入れておくことで所庭あそびでも使えます。

Point

数字が読めなくても見通しがもてるように、身近な動物や果物で表示します。

支援カード

〈いろいろな支援カード〉



こどもの特性に応じて、支援カードを作成します。



小型のカードを保育者が携行し、必要な時に提示します。

〈家庭用のカード〉



リュックにつけておくと、保育所の準備に必要なものが分かりやすくなります。

環境の工夫

〈落ち着けるコーナー〉



対象児の好きなおもちゃを用意してひとり遊びを保障します。

〈事務所内のほっこりスペース〉



クールダウンできたり、落ち着いたりできるようなスペースを作ります。
”おやすみです”の表示が出ている時は事務所に入ることができない約束になっています。
✖マークのような否定的な印象がないため、より受け入れやすく感じられます。

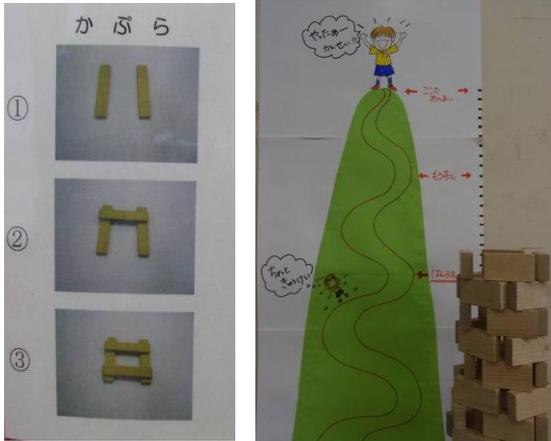
〈区切られたスペース〉



生活とあそびの場を区切ると、生活の流れがスムーズになります。

遊びや活動の工夫

〈積み木の組み立て方と高さの目安を表示〉



〈鍵盤ハーモニカ〉



〈歌詞の見える化〉



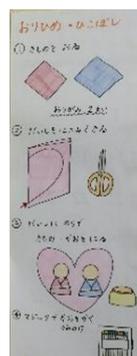
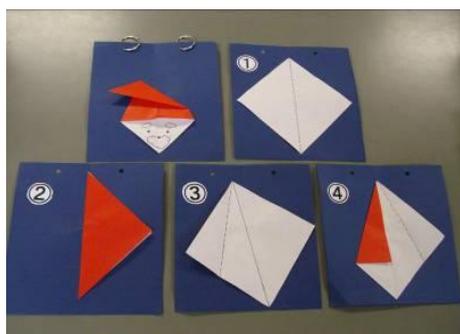
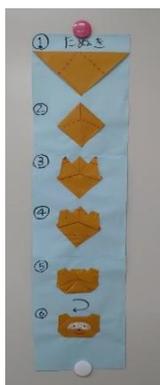
鍵盤に色分けシールを貼り、楽譜と対応しやすくします。爪に同じ色のシールを貼れば、鍵盤と合わせて弾くことができます。

〈遊びのコーナー〉



各コーナーで遊べる人数や待っているともだちを見える化します。

〈おりがみや製作の手順表〉



手順表があると1つ1つの作業を確認しながら進めることができます。また、完成形(終わり)がわかると最後まで取り組みやすくなります。

〈ステンシル(型抜き)〉



描こうとする絵の型を用意し、型の周りを画材(クレパス・筆・タンポ・鉛筆など)でふちどったり、型の中を色づけしたりしてできあがったら、型をはずします。絵を描くことが苦手なこどもも、達成感を味わうことができます。

〈すごろくの1回休みカード〉



〈予備のしっぽ〉



すごろくで1回休みのマスに入った時に、カードを取り、次の順番の時に出します。カードを出すことで、順番をとばされるという不安を和らげることができます。



しっぽを取られてもまた参加できるため、取られて悔しい気持ちで終わらずに、継続して遊びに参加しやすくなります。

〈机の位置〉



〈座り方〉



机を並べる位置に印をつけておくと、自分で並べることができます。座っている間に机がずれても、座ったまま位置を合わせることができるように手前側に印をつけます。

学校のように前を向いて座ると、話を聞く姿勢がとりやすくなり、集中しやすくなります。また、この場合、気が散らないよう、正面の壁に掲示するものは必要最小限にとどめます。

〈じょうごを使った遊び〉



排水溝の穴に小石を落とすことが好きなこどもに対し、興味を転換するために、じょうごを使った遊びを準備してみました。

じょうごの中に小石を落としたり、落ちていく砂の様子を眺めたりして遊ぶことができます。

〈感覚過敏を考慮したのりを使うときの工夫〉



苦手な感触のものは直接触らないで遊べる工夫をします。

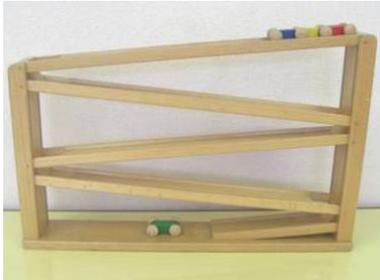
製作では、スティックのり、スタンプ、タンポなどを使用すると、直接触らずに作ることができます。

でんぷんのりを使用する場合はすぐに手を拭くことができるように、濡れタオルをそばに準備します。

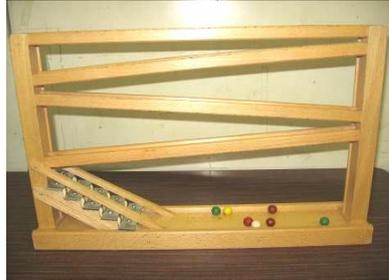
玩具・手作りおもちゃ など

落ち着けるおもちゃ

〈トレインカースロープ〉



〈玉の塔〉



〈はしご人形〉



〈おはなし組木〉



〈ワイヤーメイズ〉



〈玉おとし〉



〈ウォータータイマー〉



〈手作りおもちゃ〉



動きを目で追ったり、手指を使ったり、いろいろな感触を感じられる遊びは、気持ちが落ち着きます。



中の物がゆっくり動く様子やキラキラ光る様子、くるくるまわる様子を眺めて遊ぶことができます。

手指を使った遊び

〈ボタン〉



〈せんたくばさみ〉 〈アクティビティウォール〉



玩具は1人分ずつ分けて準備しておきます。
「自分の分」がわかり、トラブルになることが減り、安心して遊ぶことにつながります。

〈スナップボタン〉



〈ひも通し〉



〈色合わせ〉



〈ふわふわボールつかみ〉



〈ポットン落とし〉



こどもの一人ひとりの発達や興味に応じて、様々な素材を用意しておきます。

感触遊びなど

〈ボールプール〉



〈センサリーマット〉



〈緩衝材（プチプチ）〉



〈センサリーバッグ〉



〈センサリーボール〉



胸のところまでボールで包まれると心地よいこどももいます。

感覚が鈍感なタイプの子どもには『足裏に強い刺激をいれることで活動的になる』ことがあります。

〈バランスストーン〉



〈ウェイブバランス平均台〉



〈風船マット〉



〈手作り布絵本〉



〈寒天遊び〉



〈片栗粉粘土〉



保育室の構造化（幼児）

パズルコーナー



集中して遊べるよう、壁に向かって座る配置にします。



自分で色鉛筆を出してお絵かきやぬり絵を楽しみます。

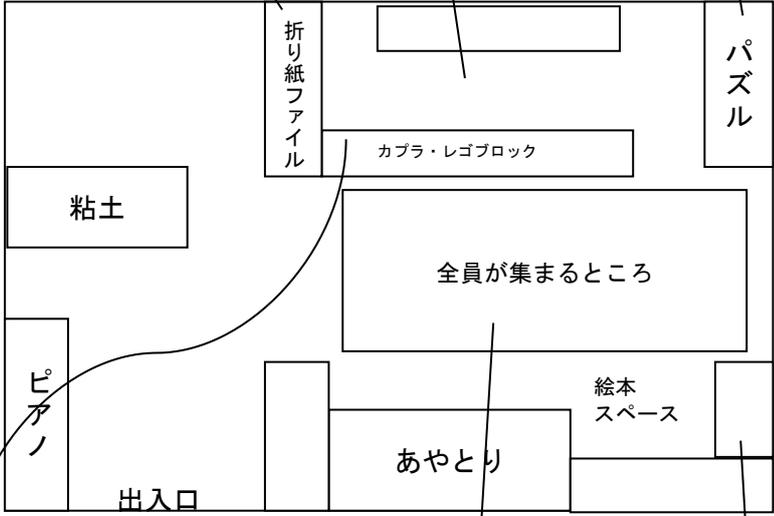


グループごとにお絵かきファイルをわけています。

粘土コーナー



作り方がわかるように写真をはっています。



ブロックを使わない時はカーテンを閉めています。



ブロックを使う時はカーテンを開けます。



朝の会で一日の予定を確認します。座る場所に個人のマークをはっています。



保育室の構造化（乳児）

食寝分離

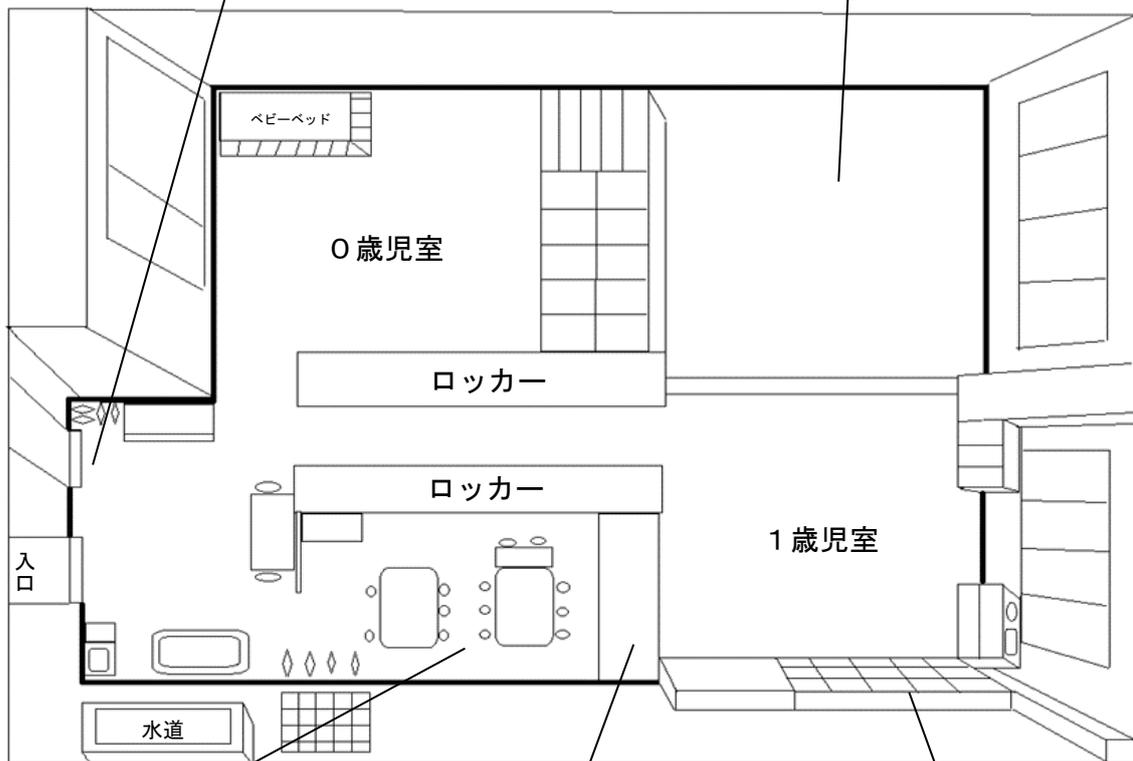
食事スペースと午睡・遊びスペースを分けて生活する室内環境です。

食事→遊び→食事→午睡と、こどもが「次はここで〇〇する」と生活の流れを理解し活動できるよう部屋を作っています。分離することが難しい保育室の場合は、こどもの動線を考え、見通しを持って生活できる環境を工夫します。

トイレ用タオルフック・着替え用椅子



汽車・ブロックコーナー・午睡コーナー



食事・製作コーナー



棚を利用した遊びのコーナー



ままごと・おもちゃ

第3章 保育所内の支援体制と計画

個別の計画について

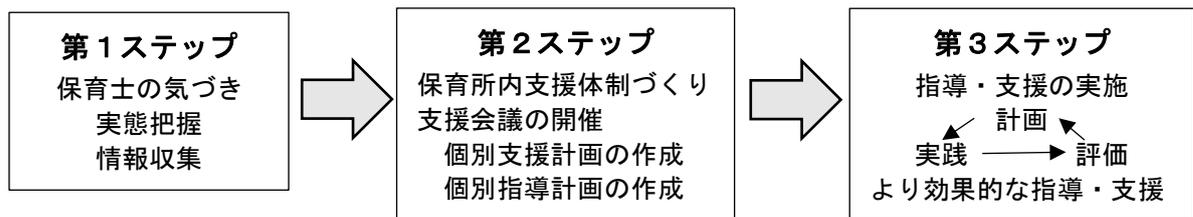
保育所保育指針においては、「障害のある子どもが他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう、指導計画の中に位置付けること。また、子どもの状況に応じた保育を実施する観点から、家庭や関係機関と連携した支援のための計画を個別に作成するなど適切な対応を図ること」と示されています。

また、幼保連携型認定こども園教育・保育要領においては、「長期的な視点で園児への教育及び保育の支援を行うために、個別の教育及び保育支援計画を作成し活用することに努めるとともに、個々の園児の実態を的確に把握し、個別の指導計画を作成し活用しに努めるものとする」と示され、一人ひとりの発達過程に配慮し、障がいの状態に応じた計画を作成することが重要とされています。

本書においては、家庭、地域及び医療や福祉、保健等の業務を行う関係機関と連携し、長期的な視点で支援を行うための計画を「個別支援計画」、また、個々の実態から短期で達成できる目標をスモールステップで設定し、具体的な手立てや支援を行うための計画を「個別指導計画」とし、説明しています。

個別支援計画の作成にあたっては、保護者の願いや家庭での様子を聞くなど、こどもについての共通理解を図り、その上で、保護者も支援者の一人として位置づけ、共に考えていきます。また、個別指導計画にあたっては、必要に応じ、保護者と一緒に支援会議をもち、こどもの姿や具体的な支援方法を共有し、支援内容を確認します。

支援のプロセス



保育所内支援会議の役割

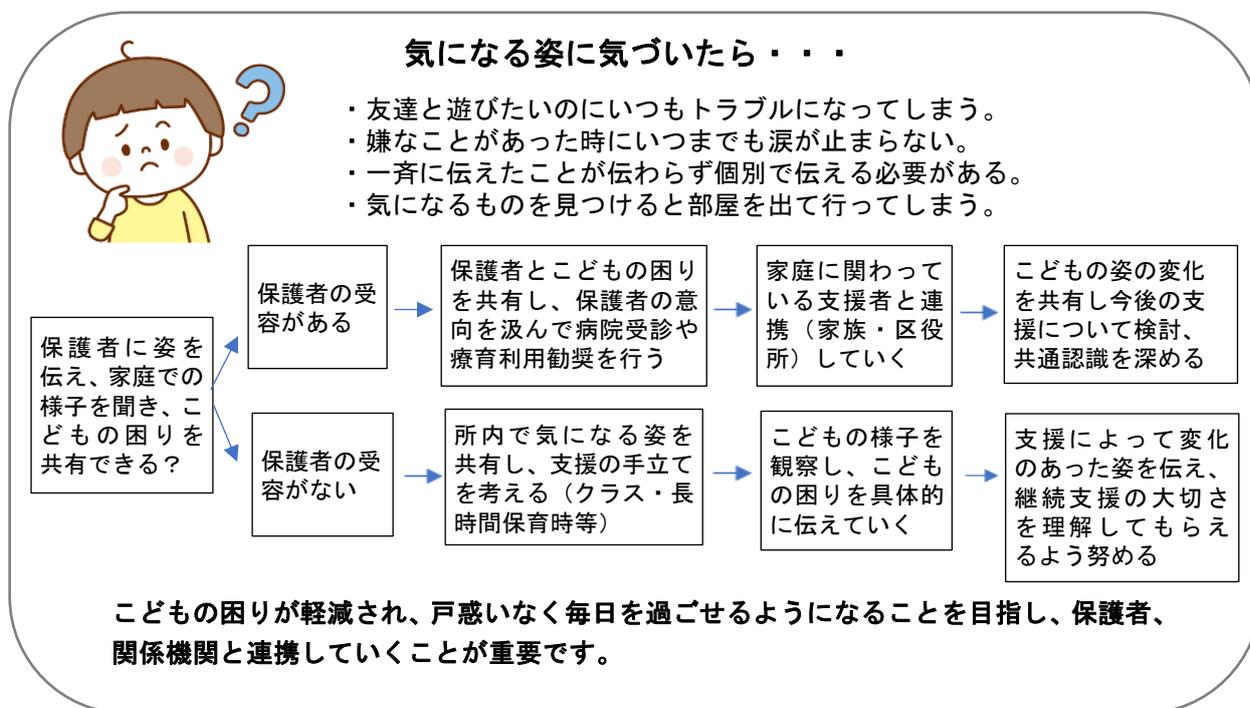
こどもの実態把握をもとに、保護者や関係機関と連携して個別支援計画・個別指導計画を作成し、支援にあたります。支援の実施にあたっては、職員全体で共通理解を持ち、統一的な対応ができるよう、所内支援会議などで確認・共有します。

また、職員研修を行い、障がいに対する正しい理解と支援のノウハウやスキルを学び続けることも重要です。

保護者との連携

保護者がこどもの障がいを受け入れるまでの過程は様々であり、家庭の背景によっては連携がスムーズに進まないこともあります。そのため、保護者も支援の対象ととらえ、思いやしんどさに寄り添い、傾聴・共感・受容の姿勢で信頼関係を築くことが何より大切です。保護者の理解がすぐに得られない場合でも、保育者は日々の保育の中でできることを丁寧に行い、行動観察に基づいた指導を続けます。そして「どのような関わり方をするとこどもがわかりやすいのか」を具体的に伝え、家庭と共にこどもの理解を深めていくことが大切です。

保護者との連携は、適切な支援の基盤となります。プライバシーや個人情報の保護については、十分に留意しなければなりません。



(1) 個別支援計画 作成のポイント

個別支援計画とは、障がいのある子ども一人ひとりの発達過程を配慮し、実態を把握した上で、個別の支援を長期的な視点で行うための計画です。

保護者から聞き取ったこどもの情報や、保育所での支援の内容などを保護者や関係機関と共有し、連携しながら切れ目なく支援を行うためのツールでもあります。

様式「個別支援計画」

個別支援計画		（ 年度 ～ 年度）		（ 保育所）	
児童名	性別	生年月日	担任	障がい・疾病等の状況	手帳の有無
		入所年月日			
医療・相談機関		関係機関からの支援や情報			
保護者の願い		支援の目標・内容			
この計画内容を確認しました。		令和 年 月 日	保護者名		
（就学前確認欄）		この支援計画書を就学先小学校に引き継ぎすることに同意します。		令和 年 月 日	保護者名

※個別支援計画・個別指導計画の管理について

- ・記載されている内容は、個人情報の保護が必要とされる情報であり、その内容については『守秘義務』があるということを、職員一人ひとりが十分に認識する必要があります。
- ・職員間で共通理解するためには、閲覧の工夫は必要ですが、個人情報の保護のため、管理には特段の配慮を心がける必要があります。
- ・関係機関との連携のために活用する場合は、必ず保護者の同意を得たうえで利用します。

個別支援計画の書き方

個別支援計画 (年度～ 年度) (保育所)

児童名	性別	生年月日	担任	障害・疾病等の状況	手帳の有無
		入所年月日	<input type="checkbox"/> 歳児クラス担任 ○○ △△ <input checked="" type="checkbox"/> 歳児クラス担任 ●● △△	・自閉スペクトラム症 ・図鑑の虫の名前を全部覚えている ・静かな場所が好き	

フルネームで書く。

・診断名がある場合は先に診断名を書く。
 ・診断名の他に特性などプラス面も含めて記入する。

・所持している手帳について書く。
 ・過去のものは「関係機関からの支援や情報」の欄に書く。

年度ごとに追記する。情報が多くなり分かりにくくなってきた場合は以前のものをまとめても良い。

基本的に情報は時系列で並べ、関係機関、担当者名とその情報を横並びに書く。(同一機関ごとにまとめて書いた方が分かりやすい場合はそれでも良い。)

・検査の種類や結果(発達年齢 DA、発達指数 DQ)、診断名などを書く。
 ・検査時の生活年齢(CA)も記入しておく。

医療・相談機関	関係機関からの支援や情報
○年度 ・○○保健福祉センター △△さん ・○○病院 △△医師 ・児童発達支援○○ △△さん	○年度 ・○○年△月□日 発達相談に行く ・○○年□月△日 発達検査(新版 K 式発達検査)…DA3:7 DQ78 (CA4:7) 聴覚より視覚が優位で、見たことは記憶に残りやすいとのこと。 ・毎週△曜日○時～○時通所 ソーシャルスキルを中心とした個別療育

・関係機関名、担当者名を書く。
 ・病院なら主治医、福祉機関なら担当者名を記入する。

療育の内容や、通っている頻度も記入する。

・関係機関からの情報は、こどもの強みや弱みを知り、保育所での支援を考える際の重要な手がかりとなる。
 ・心理所見には得意なことと苦手なことが文章で記載されているので、検査結果の数値と共に記載しておくとも良い。

・当該年度の育ちについて保護者の願いを聞き取り書く。(ニーズ通りに書く)
 ・保護者と相談できない場合は、普段の会話からくみ取れる内容を書いても良い。

・年度ごとに横に並べて書く
 ・支援は保育者が行うものなので、保育者主体の文章になるようにする。
 ・支援の目標は、個別の状況に応じた適切な支援を行うための、個別の年間目標と考える。
 ・支援の内容は、支援目標を達成するために、どのような支援、手立てを行うかを年間目標レベルで書く。

保護者の願い	支援の目標・内容
令和○年度 ・ 令和○年度 ・ 令和○年度 ・	令和○年度 ・ 令和○年度 ・

在籍期間中、年度ごとに追記する。

保護者や関係機関と共有し、継続した支援を行っていくための資料なので、見やすいことが大切。

【保護者の願い】と【支援の目標・内容】について

・「保護者の願い」をくみ取りながら、対象児の育ちを様々な情報(検査結果、保護者や関係機関からの情報、前年度の育ち等)から総合的に判断する中で、当該年度の「支援の目標・内容」を決めていきます。
 ・「支援の目標・内容」は保育所での支援なので、保護者とは異なる視点で「支援の目標・内容」を考えていくことが必要なこともあります。

保護者は支援者として支援計画の作成・実施・評価等すべてに関わり役割を果たします。
保護者の願いや思いを十分に受け止め、支援計画の内容について、共通理解を図ることが必要です。

この計画内容を確認しました。 令和 年 月 日 保護者名

(就学前確認欄) この支援計画書を就学先小学校に引継ぎすることに同意します。 令和 年 月 日 保護者名

保護者と内容を共通理解したうえでサインをもらう。

保育所児童保育要録準備時に就学先小学校に個別支援計画を引継ぐことについて保護者に確認し、同意を得たうえで就学先小学校へ引継ぐ。

(2) 個別指導計画 作成のポイント

個別指導計画とは、障がいのあるこどもの個別の支援を、短期に行うための計画です。長期的な視点で作成した個別支援計画を踏まえて、短期に達成できる目標をスモールステップで設定し、支援者が共通理解のもと同じ支援ができるように、具体的な手立てを考え、文章として見える化します。

1つの「ねらい」の中に2つの要素（項目）を混在させたり、達成できない大きな目標にしたりすると、具体的な援助・手立てが漠然としてしまうことや、方向性がずれてしまうことがあります。「ねらい」は、スモールステップで設定し、少し努力すれば達成できる内容にすることが大切です。次に示す着目ポイントを参考にして、まずはこどもの困り感に焦点をあて、項目を整理してみましょう。

生活面	主に、基本的な生活習慣について 身の回りのことを自分でできているのか、現在最も支援が必要となっていることを1～2点挙げるようにする。（登降所の用意、食事、着替えなど）
運動・身体面	・粗大運動（全身の動き、歩行の状態、体幹保持）の状況はどうか ・協調運動（道具の使用）、巧緻運動（細やかな手指の動き）の状況はどうか
言語面	・聞く一言われた内容を理解しているか、指示に対して的確な行動ができるかなど ・話す一物の名前を正しく言うことができるか、自分の要求をことばで表現できるか、言葉の不明瞭さなど ・言葉の理解一言葉の意味を正しく理解しているか、語彙数など
認識面	物事に対する理解力や文字・数・色・形・物の名前などに対する理解力など
社会性	感情のコントロールの課題、ルールを守ろうとする姿、クラス全体での話を聞く時の態度など社会生活に適應する力
コミュニケーション面	相手の気持ちに気づいたり思いやったりする気持ち、友達と仲良くしようと関わる姿など

様式「個別指導計画」

個別指導計画		（ 月 ～ 月 ）		（ 保育所 ）	
児童名	家庭の様子	所長	担任(作成者)		
クラス年齢	歳児				
項目	児童の姿	ねらい	具体的な支援・手立て	具体的な状況	評価・今後の課題
この計画内容を確認しました。		令和	年	月	日
		保護者名			

(3) 個別支援計画・個別指導計画 記載例

A. 運動障がいを伴う重度のこどもの事例	5歳児 . . . 50
B. 乳児の事例（多動傾向・発達障がいの疑い）	2歳児 . . . 53
C. 乳児の事例（療育手帳B2）	2歳児 . . . 55
D. 自閉スペクトラム症のこどもの事例	4歳児 . . . 57
E. 自閉スペクトラム症ノンバーバル（非言語表出）のこどもの事例	4歳児 . . . 59
F. 知的発達症のこどもの事例	5歳児 . . . 61



児童名	性別	生年月日	担任	障がい・疾病等の状況	手帳の有無
<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; background-color: yellow; text-align: center;"> 運動障がいを伴う重度の こどもの事例 </div>	女	入所年月日	4歳児クラス 5歳児クラス	脳性運動障がいを伴う精神発達遅滞 ・指示理解度が高い ・言葉は不明瞭だが、話したい意欲は強い ・歩行が不安定 ・人と関わることが好き	・身体障がい者手帳 1種2級 ・療育手帳 A
医療・相談機関					
令和5年度 XXクリニック ☆☆病院 △△区家庭児童相談員 こども相談センター <input type="checkbox"/> 療育園 <input checked="" type="checkbox"/> 病院 小児科：□□医師 臨床心理科：◇◇医師 訪問看護 △△ 毎週水曜日 9：30～10：30				関係機関からの支援や情報 ・母が兄弟と様子が違うと思い、生後時に××クリニックを受診する。1歳まで様子を見てこのことで、1歳時に△△区の家庭児童相談員へ相談し、☆☆病院を紹介されて脳波検査等をする。身体障がい者手帳1種2級を取得 ・R3年11月、こども相談センターで発達検査を受ける。CA2：8、DA1：4、姿勢/運動領域31、認知/適応領域53、言語/社会領域60、全体DQ：49。療育手帳Aを取得。 ・R4年11月、●●病院の臨床心理科で発達検査を受ける。CA3：9、DA1：11、姿勢/運動領域22、認知/適応領域53、言語/社会領域64、全体DQ：51。 令和5年度 ・●●病院と連携している訪問看護ステーション△△による在宅リハビリが週1回。主に、立つ姿勢の保持や階段の昇降が中心。 ・4月現在は、隔週で在宅リハビリを行っている。 ・療育には定期的に通い、バギーを作成してもらっている 令和6年度 ・5月には、こども相談センターで発達検査を受ける予定。 ・△△区家庭児童相談員からは、似た障がいをもつ保護者同士の集まりの紹介や、支援学校の見学も勧められている。	
保護者の願い					
令和5年度 ・(自力)で歩ける距離が伸びてほしい ・自分の思いや要求を少しずつ言葉で表現できるようになってほしい 令和6年度 ・友達と一緒にできることは、一緒に活動してほしい				支援の目標・内容 令和5年度 ○集団の中に入り、いろいろな刺激を受けて意欲的にやってみようとする活動を増やす。 ・興味関心を観察し、やってみたいと思える活動を増やす。 ○繰り返し表現する経験を積めるように関わる。 ・友達や保育者との安定した関わりの中で、必要な言葉や気持ちを表す言葉を具体的に知らせる。 令和6年度 ○友達との関係を深める ・保育者が仲立ちとなり、友達と一緒に遊んだり、やりとりしたりする活動を増やす。	
この計画内容を確認しました。		令和 年 月 日	令和 年 月 日	保護者名	保護者名
(就学前確認欄) この支援計画書を就学先小学校に引き継ぎすることに同意します。		令和 年 月 日	令和 年 月 日	保護者名	保護者名

個別指導計画 (11月 ~ 12月)

(保育所)

児童名	A	家庭の様子 兄が手洗いに誘うと嬉しそうに兄と一緒に手を洗いにいく。	所長	担任(作成者)	
クラス年齢	5 歳児				
項目	児童の姿	ねらい	具体的な支援・手立て	具体的な状況	
生活面	<ul style="list-style-type: none"> ・食べたいという意欲が強く、自分で食器に手を添えようとする姿が増えてきている。また、忘れていた時でも保育者の声かけによって、手を添え、食べている。 ・汁物は両手をお椀に添え、口に運ぼうとするが、お椀の角度が急になったり、上手く吸えなかったりしてこぼれる事がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食べる時、食器に手を添えて食べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食器がすべらないように、初めに滑り止めランチョンマットを敷く。 ・姿勢が安定するように、補助イスに滑り止めとベルトをつける。 ・できている時に褒め、手を添えることで食べこぼしが減り、食べやすいということに気づけるよう言葉かけし、達成感をあげられるようにする。 ・忘れていた時には、自分で気づくことができるよう、言葉をかけ、気づいたことを褒め、習慣づくようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・滑り止めとベルトをつけたことで、姿勢保持できる期間が増えている。 ・食事は意欲的に食べ、食べたい物を指差ししている。 ・食器に手を添える時もあるが、添え忘れていたり、声かけによって気づき、添えようとする姿がある。 	<p>評価・今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で意識して食器に手を添えて食べることは難しくかったが、ねらいは達成できなかったが、自分で食べたという気持ちは大いにあ る。 ・自分で食べたいという気持ちを大切に、意欲的に食べていることを認め、褒めることで、自分で食べることに楽しいと思えるようにし、次月も引き続き、食器に手を添えることをねらいとし、習慣化していくことができるようにする。
認識	<ul style="list-style-type: none"> ・友達や保育者と遊ぶ中で、数字を数え、「もういいかい」「もういいよ～」等の、やりとりをして遊んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1～10まで数える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かくれんぼ等、好きなあそびを通して数唱する機会をもつ。 ・友達や保育者と一緒に数唱を楽しみながら取り組めるようにし、その姿を認めてほめることで達成感や自信につなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの中で、1～10まで数えている。 ・発表会にむけて、虹を作ったり、カラータンを作ったりしたことにより、色に興味をもち、色の名前を言うこととする姿がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいは達成できた。 ・お団子の色に興味をもっているので、次月は、好きな遊びや制作を通して、色の名前が一致できるようにしていく。

この計画内容を確認しました。

令和 年 月 日

保護者名

個別指導計画

(1 月 ~ 2 月)

(保育所)

児童名		家庭の様子		所長	担任(作成者)
クラス年齢	A	児童の姿	食事の時に、食器に手を添えるように伝えているが、なかなか定着せず、食器が動いて食べにくそうにしている。陶器のお椀を使用している。食べこぼしも多い。		
項目	5 歳児	ねらい	具体的な支援・手立て	具体的状況	評価・今後の課題
生活面	<ul style="list-style-type: none"> 自分で食べたいという意欲があり、自分で食器を持って食べようとすする姿が増えてきている。 前かがみになり、テーブルとイスが離れていき、食べにくそうにしている事がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 食べる時、食器に手を添えて食べる。 	<ul style="list-style-type: none"> できている時にほめたり、食べこぼしが減ってきている事を実感できるような言葉かけをしたりして、達成感を味わえるようにし、習慣化していくるようにする。 食器に手を添えやすいよう、持ち手が左側にくるように配膳したり、保育者が一緒に手を添えたりと、その都度適切な援助をする。 テーブルとイスが離れていかないよう、滑り止めをつける。 		
認識	<ul style="list-style-type: none"> カラ一团子や虹の色に興味をもち、色の名前を言おうとする姿がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 「赤、青、黄、白、黒」の色が分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> 塗り絵や色づけ等、好きなあそびや制作を通して、色の理解につなげていくとともに、その取り組みや工夫をほめて、自信につなげていく。 		
この計画内容を確認しました。					
				令和	年
				月	日
				保護者名	

個別支援計画 (R 6 年度 ~ 年度) (保育所)

児童名	性別	生年月日	担任	障がい・疾病等の状況	手帳の有無	
<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; text-align: center;"> 乳児の事例 (多動傾向・発達障がいの疑い) </div> B	男		2歳児クラス ○○	発達障がいの疑い ・言葉の遅れ ・多動傾向がある ・視覚優位 ・様々なことに興味をもち、意欲的に取り組む ・食べることが好きで、食具を使い、こぼすことなく食べる		
		入所年月日				
医療・相談機関						
令和6年度 ○○区保健福祉センター 心理士と面談 △△病院 ◇◇医師		令和5年9月 1歳半健診で言葉が出ていないことから、2歳で面談することとなる。 ・令和5年12月 心理士との面談で、言葉の遅れ、あらゆるところに興味が多動性が見られることから、病院の受診をすすめられる。 令和6年度 ・令和6年5月 発達障がいの疑いと診断される				
保護者の願い						
令和6年度 ・自分のことは自分でできるようになってほしい。 ・みんなと一緒に遊んでほしい。						
支援の目標・内容						
令和6年度 ○身の回りのことのやり方を知らせる。 ・絵カードを使いながら、身の回りのことのやり方を知らせる。 ・しようとしている時にほめ、意欲的に取り組めるようにする。 ・できたことを一緒に喜び、達成感を味わえるようにする。 ○友達と一緒に好きなあそびをする機会を持ち、関わりを深める。 ・保育者が仲立ちとなり、友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じられるようにする。						
この計画内容を確認しました。		令和	年	月	日	保護者名
(就学前確認欄) この支援計画書を就学先小学校に引継ぎすることに同意します。		令和	年	月	日	保護者名

個別指導計画

(5 月 ~ 6 月)

(保育所)

児童名		B		家庭の様子		所長	担任(作成者)
項目	児童の姿	ねらい	具体的な支援・手立て	具体的な状況	評価・今後の課題		
生活面	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の声かけにより手洗い場へ向かおうとする。 ・他児が並んでいると、手洗い場横のトイレに入ろうとする姿がある。 ・自分の順番がくると、率先して手を洗う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者と一緒に手洗い場へ行く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い場へ行く時に、絵カードを示しながら、視覚と言葉で伝える。 ・他児が並ぶ前に保育者と手洗い場に行き、待ち時間なく、手を洗えるようにする。 ・並ぼうとする姿を認め、拍手をしたり一緒に喜んでいられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵カードに興味をもち、じっと見ている。 ・並んでいる子がいないと、トイレには入らず、手洗い場前までいく。 ・水を出したり、石鹸を出したりすることに興味を持ち、手洗い場につくとすぐに自分で水を出し、手を洗おうとする姿があるが、泡をたくさん出し、遊ぶ姿がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいは達成できた。 ・言葉だけでなく、視覚的にも伝えることで、迷うことなく、手洗い場に向かうことができた。 ・他児より先に手洗い場に向かう事で、待ち時間なくすぐに手洗いができた為、他児に興味があつたことはなかった。 ・水や石鹸を使う事に興味をもっているので、次月は、保育者と一緒に手洗いすることをねらいとする。 		
この計画内容を確認しました。							
				令和	年	月	日
							保護者名

個別支援計画 (R 6 年度 ~ 年度) (保育所)

児童名	性別	生年月日	担任	障がい・疾病等の状況	手帳の有無
乳児の事例 (療育手帳B2)	男		2歳児クラス	<ul style="list-style-type: none"> ・他人への興味が薄い ・走ることが好きで活発 	療育手帳 B2
C		入所年月日			
医療・相談機関 関係機関からの支援や情報					
令和6年度 ○○区役所 こども相談センター ○○区役所 児童発達支援 児童発達支援		令和6年度 ・ R 5. 12. 27 心理士に発達相談。 ・ R 6. 4. 25 発達検査の結果 全領域 DA 1 : 8 D063 (CA 2 : 8) 姿勢・運動領域 DA 2 : 5 D091 認知・適応領域 DA 1 : 8 D062 言語・社会領域 DA 1 : 4 D049 人への興味が薄いので、友達と関わる機会を増やし、言葉を添えてあげることや語彙を増やし、友達と一緒に遊ぶことが楽しいと感ぜられるようにしていくなどのアドバイスをもらう。療育手帳や受給者証についても話を聞き、母は育児中の機会に療育に行くことを検討。 ・ R 6. 4 療育手帳 B 2 取得 ・ R 6. 5 ~ 作業療法、運動中心の療育通所開始 ・ R 6. 6 ~ 言語中心の療育通所開始			
保護者の願い					
R6年度	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレで排泄できるようになってほしい。 ・友達と関わりをもってほしい 	R6年度		支援の目標・内容 ○トイレで排泄できるよう、排泄の間隔を把握してトイレに誘う。 ・できたときには大いに褒め、習慣づけるようにする。 ○友達とあそぶことが楽しいと感じることができるよう、仲立ちとなり友達関係を繋いでいく。 ・友達と遊ぶ中で、必要な仕草や言葉等、関わり方を丁寧に知らせ、一緒に遊びたいという気持ちが高まるように援助する。	
この計画内容を確認しました。					
(就学前確認欄) この支援計画書を就学先小学校に引き継ぎすることに同意します。					
			令和 年 月 日	令和 年 月 日	保護者名

個別指導計画

(6月 ~ 8月)

(保育所)

児童名	C	家庭の様子 家庭では座って遊ぶことは少なく、兄と公園で遊ぶことが多い、走ることが好きで、公園内を走りまわっている。	所長	担任(作成者)			
クラス年齢	2 歳児						
項目	<p>児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持ち手つきのパズルに興味をもち、自ら取り組もうとする意欲がある。 うまくいかなないとパズルを投げたり机から落としたりする姿がある。 	<p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持ち手つきのパズルを保育者に見守られながら、完成させる。 	<p>具体的な支援・手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「これはイルカだね、これと一緒にだからここなんだね」とあそび方を知らせる。 ・保育者がそばで見守り、1つできるとに「やったね!」とハイタッチし、達成感を味わうことができるようにする。 ・“できない”と困った表情を示したときは、さりげなくパズルの向きを変え、サポートし、楽しい気持ちで終えることができるようにする。 	<p>具体的な状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室内の自由あそびの時間に持ち手つきのパズルを出してきて、同じ形をみつけ、はめ込もうとしている。 ・パズルをはめ込めたら、嬉しそうに保育者にハイタッチをしにくる。 ・パズルをはめ込めない時に、投げたり落したりすることはない、保育者の手を持ち、表情で知らせている。 ・友達がパズルを触りにきても嫌がることなく、一緒にしようとする姿がある。 	<p>評価・今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うまくいかななくても、保育者に手助けを求め、最後まで完成させているので、ねらいは達成できた。 ・友達が近くにくると嬉しそうな姿が見られるので、次月は保育者が仲立ちとなりながら、友達との簡単なやりとりを経験できるようにしていく。 		
この計画内容を確認しました。							
			令和	年	月	日	保護者名

個別支援計画

(R 5 年度 ～

年度)

(保育所)

<p>児童名</p> <p style="background-color: yellow; border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;">自閉スペクトラム症の こどもの事例 D</p>	<p>性別</p> <p style="text-align: center;">男</p>	<p>生年月日</p> <p style="text-align: center;">入所年月日</p>	<p>担任</p> <p style="text-align: center;">4歳児クラス ○○</p>	<p>障がい・疾病等の状況</p> <p>自閉スペクトラム症 ・勝ち負けのある集団あそびで、 負けることが苦手 ・新しいことは不安になる ・経験したことは積み重なる</p>	<p>手帳の有無</p> <p style="text-align: center;">療育手帳 B2</p>
医療・相談機関					
<p>令和5年度</p> <p>○○区保健福祉センター</p> <p>□□病院 小児言語科 ■■医師</p> <p>令和5年度</p> <p>○保育者がそばにつき、友達との仲立ちとなる。 ・ゆっくり話ができるよう、モデリングしたり、正しい言葉で復唱したりする。 ・ドッジボール、中あて等の集団あそびの楽しさを味わえるよう、ルールを工夫し、肯定的な言葉がけをする。 ○保育所で生活するうえでの不安感を和らげる。 ・新しいことをするときには事前に知らせたり、見本を見せたりする。</p>					
保護者の願い					
<p>令和5年度</p> <p>・友達と仲良く過ごしてほしい ・楽しく保育所に通ってほしい</p> <p style="text-align: center;">支援の目標・内容</p> <p>令和5年度</p> <p>○保育者がそばにつき、友達との仲立ちとなる。 ・ゆっくり話ができるよう、モデリングしたり、正しい言葉で復唱したりする。 ・ドッジボール、中あて等の集団あそびの楽しさを味わえるよう、ルールを工夫し、肯定的な言葉がけをする。 ○保育所で生活するうえでの不安感を和らげる。 ・新しいことをするときには事前に知らせたり、見本を見せたりする。</p>					
この計画内容を確認しました。					
<p>(就学前確認欄) この支援計画書を就学先小学校に引継ぎすることに同意します。 令和 年 月 日 保護者名</p>					

個別指導計画

(9 月 ~ 10 月)

(保育所)

児童名	D	家庭の様子 家庭では弟とままごとをして遊んだり、一人でパズルをして遊んだりしている。パズルで遊ぶことを弟に邪魔され、怒ることもある。			所長	担任(作成者)
クラス年齢	4 歳児					
項目	児童の姿	ねらい	具体的な支援・手立て	具体的な状況	評価・今後の課題	
社会性	<ul style="list-style-type: none"> ドッジボールであてられたり、おにごっこでタッチされたりすると、怒って泣く姿がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 中あてに参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 外野からスタートし、ボールを当てた中に入れる、という経験を積む。 ボールを当てて中に入れた時に、嬉しい気持ちを感じ、何度でも中に入れるということを知らせていく。 少人数のグループですること、ボールを触る機会を多くもてるようにする。 参加できた時は十分にほめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 中あてでは、最初に外野から始めることで、ボールをあてて中に入った後、あてられて泣くこともなく外野に出る姿がある。 外野では、ボールを投げたくて、転がってきたボールを走っておいかけている。 運動会への取り組みを通して、できなかったことができ、できるようになり、自信をつける。色々な遊びに積極的に取り組んでいる。 かけっこでは勝敗を決めることをしなかつたので、勝ち負けを意識することなく、楽しんで参加することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 外野から始めることで、ボールをあてると中に入れることがわかり、楽しめるようになってきているので、ねらいは達成できた。 外野の人数を少なくすることで、ボールを触る機会が増え、ボールを投げる楽しさを味わうことができた。 次月は内野から始めるようにする。 	
この計画内容を確認しました。						
			令和 年 月 日	保護者名		

個別支援計画

(R5年度 ~ R6年度)

(保育所)

児童名	性別	生年月日	担任	障がい・疾病等の状況	手帳の有無
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; background-color: yellow;"> 自閉スペクトラム症ノンバーバル (非言語表出) のこどもの事例 </div> E	男	生年月日	3歳児クラス 4歳児クラス	障がい・疾病等の状況 自閉スペクトラム症 ・喃語を話す ・動物や恐竜が好き	手帳の有無 療育手帳 A
		入所年月日			
医療・相談機関 関係機関からの支援や情報					
令和5年度 ●●区役所 児童発達支援 □□ ◇◇病院 令和6年度 児童発達支援 ○○				・R4.2 ◇◇病院で自閉症の疑い診断を受ける。 令和5年度 ・ 毎週月・水・木通所 感覚統合あそび ・ 2月 ◇◇病院で自閉スペクトラム症と診断を受ける。療育手帳Aを取得。 ・ 10月 定期受診にて薬を処方され、毎朝服用することとなる。 令和6年度 ・ 木曜日のみ不定期で通所 個別で積み木、お絵描き等をする。	
保護者の願い 支援の目標・内容					
令和5年度 ・ トイレに行けるようになってほしい 令和6年度 ・ 友達に興味を持ってほしい				令和5年度 ○少しずつ排泄の自立に向けての援助をしていく。 ・ トイレに行き、便座に座ることに慣れることから始め、無理のない範囲で援助をしていく。 令和6年度 ○友達に興味や関心が持てるようにしていく ・ 友達が遊んでいる側に保育者と一緒に行き、興味をもてるよう働きかける。	
この計画内容を確認しました。					
		令和	年	月	日
		令和	年	月	日
(就学前確認欄) この支援計画書を就学先小学校に引き継ぎすることに同意します。				保護者名	
				保護者名	

個別指導計画

(1 月 ~ 2 月)

(保育所)

児童名	E		所長	担任(作成者)
	クラス年齢	4 歳児		
家庭の様子 トランポリンよりフィギュアへの興味が再度高まってきている。したいことや危険なことを制止されると納得できずに腕を噛んだり、全身を使って気持ちを表そうとしたりしている。	ねらい	具体的な支援・手立て	具体的状況	評価・今後の課題
<p>項目</p> <p>コミュニケーション面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登降所時などに友達や保育者に「〇〇ちゃんタッチ」と声を掛けられると応じている。 ・気持ちが落ち着いている時や楽しい気分の時は、繰り返してタッチすると喜んで、笑顔を見せている。 ・タッチから触れ合い遊びに繋がった際に、自分からタッチを求めたこともあった。 ・目が合うことはほとんどなかったが、差し出された手は視界に入っており、認識している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者とタッチをした後にふれ合い遊びをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・向かい合って目を合わせたり、声を掛けたりして楽しい気持ちになる。 ・目に入りやすい位置に手を差し出すことで、タッチすることが視覚的にわかるようになる。 ・好きな触れ合い遊び(くすぐり等)を繰り返して楽しめるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・触れ合い遊びをしている時は、身体力を抜いて喜び、笑顔を見せることが多くなってきた。 ・気分が良い時は声をかけられると、タッチする手や相手の顔を見ていることもあ る。 ・タッチ→くすぐりの流れがわかると、繰り返しを求められることもあった。また、保育者の膝の上に乗りにきたり抱っこを求めたりして身体を預ける姿がよく見られるようになってきた。 ・進級に向けて新しい部屋で過ごしていくが、旧クラスでは個室スペースがあることで落ち着いて遊べる姿があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目に入りやすい位置に手を差し出すことで、自らタッチを行い、保育者と触れ合いあそびを行う姿があるため、ねらいは達成できた。 ・今後も別の好きな触れ合い遊びを見つけていくとともに保育者が仲立ちとなりながら友達との簡単なふれ合い遊びに繋げていきたい。 ・次月は新しい部屋でも必要に応じて個室スペースを活用しながら様子を見て活動に誘い、参加できるようにしていきたい。
この計画内容を確認しました。				
令和 年 月 日			保護者名	

個別支援計画 (R 4 年度 ~ R 7 年度)

(保育所)

児童名	性別	生年月日	担任	障がい・疾病等の状況	手帳の有無
知的発達症のこどもの事例 F	男	入所年月日	2歳児クラス 3歳児クラス 4歳児クラス 5歳児クラス	中度発達遅滞 焦点てんかん ・好奇心旺盛	療育手帳 B 1
医療・相談機関 関係機関からの支援や情報					
令和4年度 ・〇〇病院 ・療育施設△△		令和4年度 ・ R 4. 12. 20 CA 2 : 11 全体 DA 1 : 2 DQ40 ・ R 5. 3月より週2回で通う。(水曜、金曜)			
令和5年度 ・大阪市中央こども相談センター ・〇〇病院 ・療育施設■		令和5年度 ・ R 5. 5. 10 CA 3 : 4 全体 DA 1 : 3 DQ39 療育手帳 B1 を取得する。 ・ R 5. 5. 20 脳波の検査を行い、てんかんと疑われる脳波の波形が見られた。新生児けいれんから焦点てんかんへ診断名が変わる。 ・ R 5. 8月より、運動メインの療育に、週1回で通う。(水曜日)			
令和6年度 ・療育施設△△		令和6年度 ・ R 6. 11月より、△△での療育を月2回、1年間受けることになる。			
令和7年度 ・療育施設××		令和7年度 ・ R 7. 6月より 週1回で通う。(月曜日)			
保護者の願い 支援の目標・内容					
令和4年度 ・生活習慣を身につけてほしい。		令和4年度 ○身の回りのことに自分から取り組もうとする気持ちを育て、自立につなげる。 ・自分でできることを少しずつ増やしていけるようになる。			
令和5年度 ・生活習慣を身につけてほしい。		令和5年度 ○少しずつできることを広げていく。 ・身の回りのことを保育者と一緒にし、自信へとつなげる。			
令和6年度 ・排泄等、自分でできることを増やしてほしい。		令和6年度 ○布パンツで過ごす時間を増やしていく。 ・排泄のタイミングを観察してトイレに誘い、成功体験を増やしていく。			
令和7年度 ・生活習慣を身につけてほしい。		令和7年度 ○自分でできることを増やしていく。 ・自分でできることを増やせるように、保育者がそばにつきながら繰り返し手順を知らせたり、一緒に行ったりしていく。			
		令和 年 月 日	令和 年 月 日	保護者名	保護者名
この計画内容を確認しました。					
(就学前確認欄)		この支援計画書を就学先小学校に引継ぎすることに同意します。		令和 年 月 日	保護者名

個別指導計画

(3 月 ~ 4 月)

(保育所)

児童名	家庭の様子		所長	担任(作成者)		
	F					
クラス年齢	4. 5 歳児					
項目	児童の姿	ねらい	具体的な支援・手立て	具体的な状況	評価・今後の課題	
生活面	<ul style="list-style-type: none"> ・尿意を感じた時に「うんこ」と訴えにくるがトイレに行っても出ないことが多い。 ・保育者が手を添えることを減らし声掛けしながら見守られる中で、パンツ・ズボンを履こうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレで便器に座り、排泄する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・便器に一定時間座れるよう、好きな歌を歌ったり、手遊びを一緒にしたりする。 ・排泄できた時は、一緒に喜び、成功体験を積み重ねていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら尿意を伝えようとする姿は見られないが、タイミングを計りながらトイレへ誘うことで、自ら座り排尿できることもある。 ・排尿できると拍手して喜ぶ姿がある。 ・声をかけられることで、パンツやズボンの上げ下げをしようとする。 ・所庭に行く時に自分で靴をもってきて履こうとするが、早く遊びたくて、かかとを踏んだまま遊びに行く姿がある。 ・保育室については戸惑いなくすぐに慣れている。 ・ロッカーやおもちゃの位置を覚え、自分で好きなおもちゃを出し、遊ぶ姿がある。 ・朝の用意については、自分でしようとする気持ちはあるが、意識がそわれて時間がかかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレへ誘うことで、便器に座り排尿できることもあり、ねらいは達成できた。 ・タイミングを図りながら排泄へ促す支援は継続していく。 ・靴を履く事に興味をもち、自分で履こうとする姿があるので、次月は、靴を履くことにねらいをおく。 ・何度も5歳児室に遊びに行き、好きなおもちゃで遊んだことにより、部屋に慣れ、ロッカーやおもちゃの位置等もわかり、ねらいは達成できた。 ・朝の用意を自分でしようとする姿があるので、次月は一定時間内に朝の用意を終えられるよう、ねらいをおく。 	
この計画内容を確認しました。					令和 年 月 日	保護者名

参考

乳児期における『気になる姿のあるこども』の観察

発達障がいなどの特性は、3歳児ごろから、集団生活や日常生活の中での困りごととして現れてくる
 ことがあります。乳児期から保育所でのこどもの姿を観察し、生活上の困りに早期に気づき、支援に
 つなげていくことが大切です。その一つ的手段として、チェックリストを活用してください。

チェックリスト（観察事項） ※対象はおおよそ1歳～2歳児					
【 歳児 名前 】			年 月 日		
	項 目	✓		項 目	✓
生活面	生活習慣全般において、積み重ねることが難しい		認知・言語面	物を渡してお願い（絵本を持ってきて読んでほしいこと示す等）ができない	
	好き嫌が多い。（食べられるものが少ない、食感覚、色が嫌など）			指差しをしない	
	トイレを嫌がる、怖がる			意味のあることばをしゃべらない	
	トイレの水や水道の水をよく流す			エコラリア※がある（反響言語）	
	気に入った服ばかり着る			場に合わないことばや、テレビ CM のフレーズを言うことが多い	
	ちょっとした汚れが我慢できず、着替える			ことばが増えず、語彙が少ない	
	布団に入ることに抵抗を示す（抱かれていないと眠らない）			発音が不明瞭で聞き取りにくい	
	睡眠のリズムがつきにくい			単語が中心で2～3語文で話せない	
汚れた時、拭いてもらったり、洗ってもらったりすることを嫌がる		指示の意味がわからない（ことばの理解が悪いように感じる）			
運動	抱っこやおんぶで自然に身をゆだねられない（抱っこを嫌がる）		行動・社会性・コミュニケーション	呼びかけに反応しない	
	ハイハイにならない（親指でけらない、いつでもずりばいになる等）			視線が合わない	
	かかとをつけずにつまずきで歩く			初めてのことや、初めての場面を嫌がる	
	歩き方や体の動きがぎこちない（バランスよく動かせない、階段昇降等）			落ち着きがない。（常に体のどこかが動いている、椅子に座ることが難しい）	
	両足跳びができない			何もなくても、甲高い声や大声を発する	
よく転ぶ		周囲に関心を示さない			
遊び	手先の動きが不器用（積み木を積む、絵本のページをめくる等）		行動・社会性・コミュニケーション	表情が乏しい	
	粘土やのり等の触感を嫌がる			困った時など、状況にそぐわない言動でその場を逃れる	
	音など外からの刺激に対して敏感に反応し、注意が散漫になる			おとな（保護者・保育者）への愛着が強すぎる（弱すぎる）	
	物を一列に並べたり、積んだりして遊ぶ			手をつなぐのを嫌がる	
	特定のおもちゃで遊び、同じ遊び方ばかりする			特定の物にこだわる	
	おもちゃ本来の扱いをしない、遊ばない（ものをなんでも回す、並べる等）			気持ちの切り替えが難しい（何をしても泣きやまない）	
	サインペン、クレパス等でぐるぐる丸を描けない（筆圧が弱い）			友達への興味、関心が乏しく、一人遊びの方が多い	
ことばや動作の真似をしない		耳をふさぐ			
人より物に興味を示す（光る物、回る物、鏡等）		後追いをしない			
※エコラリア 即時性エコラリア…相手が言った内容をすぐにそのまま繰り返す 遅延性エコラリア…以前聞いたテレビ CM の一部分などを時間を置いて繰り返す				手をひらひらさせる	
				クレーン現象が見られる（人の手を使って要求を示す行動をとる）	

参考

サポートブックとは

各種支援の経過を記録することで、支援者や支援機関が変わっても、切れ目なく適切な支援を受けることができるようになることを目的としています。

本人に関するさまざまな情報（特徴・接し方・支援方法など）を保護者または本人がまとめたものであり、支援者や支援機関に伝えやすくなるだけでなく、本人の特性をより理解することができ、新しい対応や工夫を考えるきっかけにもなります。

サポートブックは、「就学前編」「中学入学編」「高校入学編」「大学等入学編」「就職編」があります。

各サポートブックは「エルムおおさか」のホームページからダウンロードできます。



先生方へ

・このサポートブックは()が初めての小学校生活をよりスムーズに開始できるように、家庭内外での経験や、医療機関、幼稚園、療育機関などの先生方からの情報に基づいて作成しました。

・小学校や関係機関の先生方と()が困った時の工夫の仕方などを情報共有することで、それぞれの場所でもより充実した時間を過ごせるものと思います。

・先生方にも小学校で()について発見したことを書きこんでいただけたらうれしいです。どうぞよろしくお願いいたします。

年 月 日 作成者:()

いいところリスト

☆できること・がんばっていること

☆特技・とてもかわいいこと

*先生と一緒にたくさんいいところ(具体的な行動)を見つけください。

好きなこと・落ち着くこと

☆好きなこと

☆落ち着くこと

苦手なこと・不安になりやすいこと

・場所:

・場面:

・ひと:

・食事:

・その他:

プロフィール

名前:

生年月日:

家族:

住所:

連絡先:

医療機関: ホームドクター…
主治医(発達障がい)…

相談先・支援機関:

診断名(発達障がい): なし・あり ⇒

てんかん: なし・あり ⇒

その他の疾患: なし・あり ⇒

薬: なし・あり ⇒

配慮事項: なし・あり ⇒

発達・知能検査: なし・あり ⇒

障がい手帳: なし・あり ⇒

発達の特徴

当てはまるものに☑をつけてください。心配な分野の傾向がわかります。

1. ことば、コミュニケーションの心配	<input type="checkbox"/> とてもある	<input type="checkbox"/> ある	<input type="checkbox"/> なし				
2. 変化への適応の心配	<input type="checkbox"/> とてもある	<input type="checkbox"/> ある	<input type="checkbox"/> なし				
3. 社会性での心配	<input type="checkbox"/> とてもある	<input type="checkbox"/> ある	<input type="checkbox"/> なし				
4. 多動性・衝動性・不注意	<input type="checkbox"/> とてもある	<input type="checkbox"/> ある	<input type="checkbox"/> なし				
5. 学習上の心配	<input type="checkbox"/> 聞く	<input type="checkbox"/> 話す	<input type="checkbox"/> 読む	<input type="checkbox"/> 書く	<input type="checkbox"/> 計算する	<input type="checkbox"/> 推論する	<input type="checkbox"/> なし
6. 運動・姿勢の心配	<input type="checkbox"/> バランスが悪い	<input type="checkbox"/> 不器用	<input type="checkbox"/> 姿勢がくずれやすい				
7. 生活面での心配	<input type="checkbox"/> とてもある	<input type="checkbox"/> ある	<input type="checkbox"/> なし				
8. 有効な情報呈示方法	<input type="checkbox"/> 視覚優位	<input type="checkbox"/> 聴覚優位	<input type="checkbox"/> 両方	<input type="checkbox"/> わからない			
9. 感覚の過敏性	<input type="checkbox"/> 視覚	<input type="checkbox"/> 聴覚	<input type="checkbox"/> 触覚(特に顔)	<input type="checkbox"/> 味覚	<input type="checkbox"/> 嗅覚	<input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> なし
10. 知的な面での心配	<input type="checkbox"/> とてもある	<input type="checkbox"/> ある	<input type="checkbox"/> なし				

具体的には…

当てはまるものに☑を記入してください。困っている分野の傾向がわかります。

お助けアイデアは、具体的には6頁をご覧ください。

具体的には	お助けアイデア
<input type="checkbox"/> 1 困った時に助けを求められない	工夫 1
<input type="checkbox"/> 2 話す内容が年齢に比べて幼いように思う	工夫 2
<input type="checkbox"/> 3 一方的な会話が早い	工夫 3
<input type="checkbox"/> 4 人の話を聞いて理解するのが苦手 ～一斉指示は無関係と思いがち	工夫 4
<input type="checkbox"/> 5 複数の指示を覚えるのが苦手	工夫 5

具体的には	お助けアイデア
□ 6 見て理解することが得意 ～禁止の指示は見えた方がわかりやすい	工夫 6
□ 7 予定の変更を受け入れにくい	工夫 7
□ 8 新しいもの、場所、人を受け入れにくい ～環境の変化に敏感	工夫 8
□ 9 一つのことにはまりやすい ～興味:車、こだわり:勝敗、順番、道順	
□ 10 ひとり遊びが好き	配慮 1
□ 11 ルールや社会的な約束ごとがわかりにくい	工夫 9
□ 12 思い通りに事が進まなかった時、イライラが高じやすい	工夫 10
□ 13 思ったことを罵気なく口にして、友達とケンカになることがある	工夫 11
□ 14 集団で行動することが苦手	配慮 1
□ 15 いつもおしゃべりしている	
□ 16 じっとすわっていることが苦手 ～立ち歩いてしまう	工夫 12
□ 17 気が散りやすく先生の話を聞きのがす、聞き間違える	工夫 4
□ 18 忘れ物・なくし物が多い	工夫 13
□ 19 行事等でいつもと違う雰囲気やテンションが上がると、多動になる	配慮 2
□ 20 一つのことをやり続けることが苦手	工夫 14
□ 21 興味の対象が次々に変わる	
□ 22 正しい発音ができにくい	工夫 15
□ 23 文字を読む、書くことがとても苦手	工夫 16
□ 24 数える、計算することがとても苦手	工夫 17
□ 25 絵を描くことがとても苦手	工夫 18

5

具体的には	お助けアイデア
□ 26 遊具であそぶこと(縄跳び、鉄棒、一輪車など)が苦手	
□ 27 姿勢を保つのが苦手	工夫 19
□ 28 不器用	
□ 29 トイレに見守り・配慮が必要	
□ 30 整理整頓、準備、片づけ(登下校時や授業の時等)が苦手	工夫 20
□ 31 給食を食べる時に見守り・配慮が必要	
□ 32 偏食がある	配慮 3
□ 33 着替える時に見守り・配慮が必要	
□ 34 スピーカー等の大きな音が苦手で行事に参加できにくい	配慮 4
□ 35 感覚の敏感さのために難しい活動(のりづけ、プールなど)がある	配慮 5
□ 36 その他 ()	

☆困っている(心配な)分野

*先生に相談したい優先順位:1～3まで

記入者()

困っていた番号	チェック数	心配な優先順位	困っている(心配な)分野
① ② ③ ④ ⑤ ⑥	/ 6		ことば、コミュニケーションの心配
⑦ ⑧ ⑨	/ 3		変化への適応の心配
⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭	/ 5		社会性での心配
⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳	/ 7		多動性・衝動性・不注意の心配
㉑ ㉒ ㉓	/ 4		学習上の心配
㉔ ㉕ ㉖	/ 3		運動・姿勢の心配
㉗ ㉘ ㉙	/ 4		生活面での心配
㉚ ㉛	/ 2		有効な情報提示方法
㉜ ㉝ ㉞	/ 3		感覚の過敏性

6

先生方からの情報

☆保育所・園で: 記入日 年 月 日

☆療育機関などで: 記入日 年 月 日

☆小学校で:入学から1か月間の様子を教えてください。 記入日 年 月 日

7

活用しているいろいろな工夫

☆いろいろな工夫例の写真など

8

検査結果のまとめ

☆主治医、心理士、専門スタッフより

☆保護者より

大阪市の就学相談

☆就学相談の窓口 … 通学区域の小学校

・大阪市ホームページ…「障がいのあるお子さんの就学・進学相談」

<https://www.city.osaka.lg.jp/kyoiku/page/0000545291.html>

☆保護者相談窓口 … 大阪市教育委員会事務局指導部 インクルーシブ教育推進担当
Tel. 06-6327-1016・1017

9

- 工夫11： 落ち着いてから、本人・相手の気持ちや行動をマンガで見える化しながら話し合い状況を共有する。どうすればよいか話し合った後、周囲・相手と問題解決することを促す。
- 工夫12： 授業の流れを見える化(①～②～③～)したり、授業を区切って構成する(15分×3など)、集中が続きにくい子にはプリント1枚中の課題数を減らす等、課題の量とレベルを工夫するとよい。
- 工夫13： 簡易書きされた連絡事項を連絡帳に記入し、家庭で必ず内容を確認することを連携して取り組み習慣化。チェックリストを使うのも便利。忘れ物をした時にどうするか決めておくことで安心できる。
- 工夫14： 宿題をする時は、すぐにできそうな量、集中して取り組みそうな時間に調整して、好き・得意な内容から取り組む。
- 工夫15： おとなが聞き取って話す楽しさを維持する。発音が不明瞭なために同級生との会話に困る場合は、ことばの相談に行ってみるのもよい。
- 工夫16： 読みが苦手…文字を拡大する、行間をあける、定規を使い1行ずつ見えるようにする、読めない漢字にルビをふる、句読点に色をつける、文節ごとにスラッシュ(/)を入れる、といった工夫の他に、絵や図や口頭の説明で内容をイメージできるようにすることも効果的。
書きが苦手…量と大きさを調整する。個人に合った量と方法(漢字九九など)で書く練習をするともに、PCやひらがなゲーム等で文字の構成を楽しみながら学習していくとよいと思われる。
- 工夫17： 計算が苦手…数の概念がつかめない場合は、数字や量を視覚的に示す。算数に使う記号の意味やイメージが持てるように、具体物を用いて覚えると効果的。
- 工夫18： 絵を描くのが苦手…絵に描く内容をイメージしにくい場合は、事前にテーマを決めたり、描く内容を写真や見本で見せるとわかりやすい。感覚過敏や手先の不器用さがある場合は、道具を工夫する。

11

参考資料:お助けアイデアのいろいろ

心理教育的に有効であるとされている支援方法のいくつかをご紹介します。
すぐに役立つような方法があればご参考・ご活用ください。

- 工夫1： 授業中、助けてほしいことや質問があるときにヘルプ(☆)
カードを机の上におくと先生が順番に来てくれるシステムは便利。
- 工夫2： うまく話せない時は、ゆっくり聞きながら本人が話したいことをことばを補足しつつ話すことで会話が成立しやすくなることが多い。
- 工夫3： 順番や交代を意識するゲームや課題を一緒にして交代を練習する。発言の順番や「話す人」「聞く人」が視覚的に明示されているとよりわかりやすい。
- 工夫4： 名前をよぶなどして注意喚起してから一斉指示する、一斉指示の後で個別に確認する等で確実に指示内容を理解しやすくなる。
- 工夫5： 板書、メモ等で指示内容が显示されていると再確認しやすい。
- 工夫6： ルールや禁止の指示等は、図やマーク、ポスター、短文等で見える形で表示する方がわかりやすい。
- 工夫7： 見える形でスケジュールを显示しておき、変更もそのスケジュール上で見える形で伝えると気持ちを切り替えやすい。
- 工夫8： あらかじめ、初めての場所・活動・ひとについての情報を伝えておく、可能であれば予行演習する。不安になった時にはどうするかも話し合っておく(別室に落ち着きに行く、等)。
- 工夫9： 社会的な約束事・ルールを明記して伝える。
- 工夫10： イライラしてきたときは静かになって落ち着く場所へ誘導する。予想通りに進まないことがあるかもしれないことを事前に伝えておくことも1つの方法。

10

- 工夫19： 姿勢保持しやすい座布団(Qチェアマット)などを使う。
メリハリをつけて練習していく(板書を写す時だけ良い姿勢、等)。
- 工夫20： 仕切りなどの片づけツールやチェックリストを活用する。
整理整頓された机の写真を見本として示す。
- 配慮1： 休み時間に教室で本を読むなどひとりで過ごす時間を確保していただくと安心して1日をご過ごすことができる。
- 配慮2： あらかじめどこでどんな活動をするか見える形で伝えておいていただく。スケジュールの中に落ち着くために休憩スペースに行くことが入っていたり刺激が入りすぎない場所にいるように配慮していただくのが難しい。
- 配慮3： 苦手な食べ物は量を減らしてトライする、本人の申請のもとで最初から盛り付けない、残す、という選択肢も設けていただくと安心して給食の時間に臨める。
- 配慮4： 感覚過敏がある。イヤマフ等のお助けグッズの使用や音量を下げる、運動会でのアナウンス方法を変える等環境を調整することを検討していただけるととても有難い。
- 配慮5： のりづけはスティックのりで行う、顔が敏感な場合はプールで顔つけなしでOK等、各児の感覚の感受さに応じて配慮していただくと有難い。

12

(発行元) 大阪市発達障がい者支援センター

大阪市立心身障がい者リハビリテーションセンター発達障がい者支援室

参考

発達障害者支援法（平成17年4月施行）

第一章 総則

（定義）

第二条 この法律において「発達障害」とは、自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するものとして政令で定めるものをいう。

（国及び地方公共団体の責務）

第三条 国及び地方公共団体は、発達障害者の心理機能の適正な発達及び円滑な社会生活の促進のために発達障害の症状の発現後できるだけ早期に発達支援を行うことが特に重要であることにかんがみ、発達障害の早期発見のため必要な措置を講じるものとする。

第二章 児童の発達障害の早期発見及び発達障害者のための施策

（保育）

第七条 市町村は、保育の実施に当たっては、発達障害児の健全な発達が他の児童と共に生活することを通じて図られるよう適切な配慮をするものとする。

保育所保育指針（平成29年3月告示・平成30年4月適用）

第一章 総則

3. 保育の計画及び評価

（2）指導計画の作成

キ 障害のある子どもの保育については、一人一人の子どもの発達過程や障害の状態を把握し、適切な環境の下で、障害のある子どもが他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう、指導計画の中に位置付けること。また、子どもの状況に応じた保育を実施する観点から、家庭や関係機関と連携した支援のための計画を個別に作成するなど適切な対応を図ること。

できた！わかった！たのしいよ！リニューアル版
～そう感じることができる保育を～

発行 大阪市こども青少年局幼保施策部保育所運営課
大阪市西区立売堀4丁目10番18号
電話 06-6684-9345
FAX 06-6684-9184

令和8年3月

